

△参考▽

3 軍備縮少会議準備委員会

第三回会議報告書

昭和二年六月

軍備縮少會議準備委員會第三回會議報告書

祕

條約局第三課

目次

第一編 總論	一
第一章 軍縮準備委員會第三回本會議開催ノ由來	一
第二章 第三回本會議ノ開會、出席國及我代表部ノ構成	一
第三章 第三回本會議々題	三
第二編 各論	五
第一章 一般討論	五
第一節 議長開會演說	五
第二節 英佛兩代表ノ條約草案提出ト之ニ對スル一般討論	六
第三節 委員會ノ審議手續ノ決定	一三
第二章 陸軍々備ノ制限	一四
第一節 人員ノ制限	一四
第二節 豫後備兵ノ制限	一四
第三節 陸軍人員ノ領土の區別制限	一五
第四節 陸軍人員ノ階級の區別制限	一六

第五節 兵役年限ノ制限	一七
第六節 陸軍器材ノ制限	一八
第七節 器材ニ關スル通報	一九
第八節 陸軍々備ニ關スル第一讀會ノ決議要旨	二〇
第三章 海軍々備ノ制限	二三
第一節 經過概要	二三
第二節 英佛條約案對照(附)其他ノ主要ナル提案	二五
第三節 帝國ノ見解(附)列國ノ態度	二七
第四節 原案ノ修正	二九
第五節 帝國ノ讓歩	三〇
第六節 最終決定事項	三一
第四章 空軍々備ノ制限	三五
第一節 人員ノ制限	三五
第二節 器材ノ制限	三六
第三節 空軍ノ制限ト民間航空	三九
第四節 空軍々備ニ關スル第一讀會ノ決議要旨	四〇
第五章 豫算	四二
第一節 經過概要	四二
第二節 英佛案ノ對照	四三

第三節 主ナル意見ノ摘要	四四
第四節 決定事項	四六
第六章 條約實施ニ關スル條項	四七
第一節 一般討論	四八
第二節 細目審議	五二
第一款 條約適用除外例ニ關スル條項	五二
第二款 軍事情報ニ關スル條項	五二
第三款 批准及條約ノ效力發生存續ニ關スル條項	五三
第四款 軍事常設機關ニ關スル條項	五六

軍備縮少會議準備委員會第三回會議報告書

第一編 總 論

第一章 軍縮準備委員會第三回本會議開催ノ由來

- (一) 軍縮準備委員會第一回本會議ニ於テハ軍縮問題集ニ付一般討議並條項ノ整理ヲ行ヒ第一小委員會(軍事)及第二小委員會(軍事以外ノ事項)ニ各問題ヲ配分附議シ専門的研究ヲ爲サシメタリ即第一小委員會ハ第一回(五月二十八日ヨリ七月六日迄)第二回(八月二日ヨリ九月九日迄)及第三回(九月二十七日ヨリ十一月五日迄)ノ三期ニ互リ小委員會本會議通計八十六回陸海空ノ三分科會通計百三回ノ會合ヲ重ネ附託問題全部ノ審議ヲ終リ一ノ報告(C.P.D. 25)ヲ準備委員會本會議ニ提出シ第二小委員會ハ第一回(五月二十六日)第二回(九月二十七日)第三回(十一月二十九日)及第四回(昭和二年三月十六日)ノ會合ヲ重ネ附託問題ニ關スル混成委員會民間航空ニ關スル委員會及軍事豫算ニ關スル委員會ノ報告ヲ了承シ之ヲ一括準備委員會本會議ニ提出セリ(C.P.D. 29, 39, et 40)
- (二) 右ノ如ク準備委員會ノ基礎的研究大體完了ヲ告ケタルニ付準備委員會本會議第三回會議開催ノ機運熟シ委員會議長ニ於テ三月二十一日會議召集ノ通牒ヲ發スルコトナレリ

第二章 第三回本會議ノ開會出席國及我代表部構成

- (一) 第三回本會議出席國並代表左ノ如シ(C.P.D./42)

獨逸	「ベルンストルフ」伯
亞爾然丁	「ベ」氏
白耳義	「アルッケール」氏
勃牙利	「ゲルチョコフ」氏
「コロンビア」	「ウルチア」氏
支那	朱兆章氏
智利	「イニゲ」氏
英帝	「セシル」郷
米國	「ギブソン」氏
芬蘭	「エリック」氏
佛蘭西	「ボールボンタール」氏
伊太利	「マリニス」氏
日本	佐藤公使
和蘭	「ラウドン」氏 (議長)
波蘭	「ソカル」氏
羅馬尼	「コムネーヌ」氏
「セルブ、クロアット、スロヴニス」	「ヨバノビツ」氏
「サルヴァドル」	「ゲレロ」氏

- 瑞 典 「ヘンニング」氏
「チェッコ、スロヴァキア」
「ヴェグネルカ」氏
(二) 西班牙伯刺西爾及「ウルグアイ」ハ不參
我代表部構成
代表 佐藤公使

隨員 杉山陸軍少將、堀海軍大佐、伊藤書記官、園部陸軍中佐、小林海軍中佐、佐藤書記官、十川陸軍少佐、宮崎海軍大尉、阪本書記官、鈴木(九萬)書記官

第二章 第三回本會議議題

- (一) 第三回本會議議題トシテ前回會議ニ於テ決定ノ分左ノ通り
(1) 一九二五年十二月十二日ノ理事會ヨリ附議セラレタル問題集ニ對スル回答 (C. 30/1926. IX)
(イ) 第一小委員會報告 (C.P.D./28)
(ロ) 第二小委員會報告 (C.P.D./29. 39. 40)
(ハ) 混成委員會報告ニ對スル各國政府意見 C.P.D./30. 33. 34)
(ニ) 準備委員會ニ宛テタル各國政府覺書 (C.P.D./11(1) 13. 22)
(2) 一九二六年十二月八日ノ理事會ヨリ準備委員會ニ宛テタル問題
(イ) 芬蘭代表ノ提議 (C.P.D./31. C/677, C/690(1))
(ロ) 軍備縮少本會議開催ノ時期
(ハ) 軍縮本會議ノ議題 (C.P.D./32)

(二) 第三回本會議ニ於テ英佛代表ヨリ提出ノ條約草案 (C.P.D./41(I)C.P.D./43(I))
右兩草案ハ實際ニ於テ第三回本會議ノ議題トナレリ

第二編 各 論

第一章 一般討論

第一節 議長開會演說

委員會三月二十一日開會先ツ委員會議長ヨリ左ノ趣旨ノ陳述アリタリ

「今回ノ第三回會議ハ恐ラク準備委員會ノ最モ至難ナル段階ヲ形成スヘシ今ヤ世界ノ輿論ハ我準備委員會ノ事業ニ注目シ居レリ吾人ハ努メテ卒直ニ所信ヲ吐露シ本事業ノ完成ニ當ラサルヘカラス吾人ノ目的ハ軍備ノ撤廢ニ非スシテ規約ニ所謂軍備ノ縮少ナラサルヘカラス何トナレハ軍備ノ撤廢ハ現下ノ情勢ニ於テ之カ實現ノ可能性ナク又地方侵略ニ對シ防禦ヲ爲スコト一ノ神聖ナル行動ナルヲ忘ルヘカラス軍縮會議ノ眞ノ使命ハ厭フヘキ軍備競争ヲ防止シ併テ之ニ起因スル各國間ノ疑惑戰爭ノ誘發ヲ禦カントスルニ在リ

準備委員會ノ任務ハ尤大ナル專門委員會ノ報告ノ審査ニ非ス此等ノ報告ハ專門委員努力ノ結晶ニシテ各國意見ヲ漏レナク列舉シアリ委員會任務遂行ニ資スル所大ナルヲ認ムルモ吾人ノ執ルヘキ態度ハ各人ノ獨自ノ見解ニ糊著セス相互讓歩ニ依リ協調ニ努メ出來得レハ條約草案ノ成立ヲ實現セシムルニ在リ

又吾人ノ目的トスル所ハ世界ノ一般的規約ノ實現ニ在リ此見地ニ於テ米國代表ノ貴重ナル協力ニ對シ敬意ヲ表スルト共ニ勞農露國其他ノ非聯盟國ノ協約參加ヲ冀重シテ止マス之カ爲ニハ協約ヲ非聯盟諸國ノ加入シ得ヘキカ如キ形式ノモノト爲スノ必要アリ他方聯盟諸國ハ規約第八條ニ依リ軍備縮少遂行ノ義務ヲ負フヲ忘ルヘカラス

委員會ハ又軍縮協約ノ一般計畫ヲ爲スニ當リ先ツ三要素ニ關スル軍備制限ノ方策ヲ研究スルコトヲ要ス即人員器材豫算コレナリ此等三要素ニ關シ制限ノ原則採用セラレタル場合ハ進ンテ各個ノ要素ニ付基礎の原則ヲ求メ漸次細目ノ研究ニ

移ルヲ捷徑ト信ス云々」

第二節 英佛兩代表ノ條約草案提出ト之ニ對スル一般討論

英代表ハ有益ナル議長ノ陳述ニ對シ謝意ヲ表スト前提シ今回ノ委員會會議ハ專門委員會ノ報告ヲ審査スルコトニ豫定セラレ居ルモ若シ此難事業ニ執著シ今回ノ委員會ニテ軍縮ノ大目的ニ付著シキ進展ヲ示ササルカ如キコトアランカ世界輿論ノ失望ヤ大ナルヘク軍縮ノ必要ハ敢テ謀々ヲ須ヒサルモ大戰以來ノ兵器ノ進歩ニ鑑ミ今ニシテ之ニ障壁ヲ設ケ災厄ノ到來ヲ堰止メサレハ將來ノ慘禍想見ニ余アリト喝破シ尋テ大戰以來ノ軍縮事業ノ沿革殊ニ一九二五年ノ佛國代表ノ準備委員會設置提唱以來ノ經過ニ言及シ各專門委員會ノ功績ヲ賞揚シ右貴重ナル研究ハ必スヤ將來ノ軍縮事業ノ礎石ヲ爲スヲ疑ハストシ轉シテ世界輿論ノ一部カ聯盟ノ軍縮事業ノ成功ニ付疑念ヲ抱キ始メタルヲ感得スルヲ以テ今回ノ委員會ハ是非共軍備縮少制限ノ實現シ得ルコト及之カ爲ニハ重大ノ困難ナキ事ヲ世界ノ輿論ノ前ニ示ササルヘカラス小委員會ノ報告ヲ注視スルニ左ノ五點ハ各國ノ均シク認ムル根本原則ナルヲ知ル

- (一) 陸海空軍ハ一括シテ制限ノ目的ヲ爲スヘキノ原則ナリ唯此一括制限ノ實行ニ當リテハ各軍ノ特性ニ留意スルヲ要シ從テ三軍各別審議ノ要ニ迫ラルルナリ
 - (二) 三軍一括制限ノ原則ヲ貫クハ制限ハ一般のタルヘク地方のタルヘカラサルノ原則コレナリ即陸軍及空軍ニ付テハ地方的協定ノ存立ヲ認メ得ヘキモ海軍ニ付テハ事情全ク異ルナリ
 - (三) 制限ノ目的タリ得ヘキモノハ平時ノ軍備ニ限ラルル原則コレナリ
 - (四) 陸軍ニ付テハ人員ノ制限ニ依ルヘキコト海軍ニ付テハ噸數ノ制限ニ依ルヘキコト及空軍ニ付テハ機材ノ制限ヲ主タル方式トスヘコトニ付テハ一般ノ見解合致ス
 - (五) 陸軍ニ付テハ何等カノ方法ニ依リ器材ノ制限ヲ爲スヘシトスルノ點コレナリ
- 以上五原則ニ付テモ細目ニ於テ各國ノ間ニ相當意見ノ岐ルル點アリ殊ニ海軍ノ噸數制限方式民間航空ノ問題軍備縮少ノ國

際ノ監督ノ問題等ニ付テハ各國ノ見解一致セス然レトモ吾人ニシテ若シ實行の方面ヨリ觀察スルト共ニ相互ノ誤解ヲ排除スルニ努メハ案外容易ニ解決ノ途ヲ發見シ得ヘキヲ確信ス之カ爲ニハ各國ノ地位國情ニ留意シ各國ノ承服シ得ヘキノ條約案ヲ作り以テ軍縮本會議ノ討議ノ基礎ヲ作ルヲ捷徑トス是レ英國政府カ一ノ條約案ヲ作成委員會ニ提出シ委員會ノ討議ヲ容易ナラシメント企圖シタル所以ナリ唯英國政府ハ本條約案ヲ會議ニ強要セムトスルモノニ非スト陳述シ條約案ノ各項ニ付詳細説明ヲ加ヘ他ノ代表部ニ於テモ英國代表ニ倣ヒ條約案ヲ提出セラレン事ヲ望ムト結フ

佛代表ハ小委員會ノ努力ノ結晶タル諸報告ニ對シ贊辭ヲ呈シ此研究ノ結果ハ委員會ノ今後ノ任務遂行ニ資益スル所大ナルヘク委員會ハ右小委員會ノ決定ニ拘束セラレサルハ勿論ナルモ右報告ハ今後委員會ニ於テ之ヲ無視シ得ヘキニアラスト斷シ次ニ委員會ノ任務ニ言及シ今回ノ委員會ハ軍縮本會議ノ「プログラム」決定ニ在リ即本會議ニ一ノ條約草案ヲ與ヘ具體的ノ制限論議ノ基礎タラシムルニ在リ佛國政府ハ寧ロ委員會ニ於テ從來研究シ盡サレタル各種ノ問題ニ關スル各政府ノ所信ノ陳述ヲ求メ充分ノ意見交換ノ後基礎的ノ方針ヲ抽出シ後條約草案ノ作成ニ著手スルノ方法ヲ選ハントシタリ然レトモ既ニ英國代表ヨリ一ノ條約草案ヲ委員會ニ突附ケラレタル以上佛國側ハ其素見ヲ棄テ一ノ條約對案ヲ提出スルノ止ムナキニ至レリト述ヘ尋テ其條約對案ノ各項ニ付一々詳細説明ヲ加ヘ委員會ノ作製スヘキ條約案ハ規約第八條ヲ出發點トシ締約國ハ其安全ヲ確保スルニ足ル兵力ニ制限縮少スルヲ約スルノ主義ニ基カサルヘカラス目下ノ狀態ニ於テ不幸ニシテ一般の安全ノ存在セサルハ勿論ナルモ近來規約ノ安全保障ニ關スル規定ヲ擴充スル局地的條約ノ締結ニ依リ或程度ノ安全ヲ確保シ得タルニ依リ之ト相容ルル程度ノ軍備縮少ノ實現ヲ企劃シ得ルニ至レリ即吾人ノ事業ハ軍縮ノ第一步ニ過キス既ニ聯盟カ一國ノ安全ヲ充分確保スル手段ナキ以上一國ハ其安全ヲ自己ノ力ヲ以テ確保スルノ外方途ナシ軍縮條約ノ完全ナルヲ得サル所以茲ニ出ツト述フ

伊代表ハ條約草案ノ審議ニ著手スル前先ツ條約ノ基礎タルヘキ原則ヲ抽出スヘシトスル佛國代表ノ說ニ贊成シ問題ノ根本ニ付解決ヲ與ヘスシテ本會議ヲ開催セントスルハ徒ニ會議ヲ紛糾セシメ竟ニ失敗ニ終ラシムルノ基ナリ即委員會ノ任務ハ

形式的且空漠ナル原則ヲ羅列スルニ在ラス例ヘハ各國カ本會議ニ於テ自國ノ安全ニ必要ナル兵力ニ付正確ナル提議ヲ爲スヘシトノ原則ハ我軍縮事業ノ根幹ヲ爲ス原則ナルモ此原則ハ充分ノ説明ヲ附シ適用ノ範圍ヲ明瞭ナラシメサルヘカラス一國ノ安全ハ問題集第五ニ列記スル各種複雜ナル要素ニ依リ決定セラルルコト事實ナルモ又一國ノ安全ハ他國ノ軍備ノ程度ニ依リ影響セラルルヲ忘ルヘカラス此點ニ付或ハ各國軍備ノ現狀ニ基キ軍縮ヲ行フヘシト主張スル論者アリ然レトモ此原則ヲ認ムルニハ總テノ國ノ現在ノ軍備カ其國防ノ要求ニ應スル程度ニ在ルヲ前提トセサルヘカラス然レトモ此前提ノ誤レハ云フヲ俟タス伊國ハ戰後自發的ニ其軍備ノ極端ナル縮少ヲ斷行シタルモ他ノ國ハ然ラス若シ現狀ヲ基礎トシテ軍備ノ縮限ヲ行ハンカ夫ハ結局過大ナル軍備ヲ維持スル國ヲ利得セシムルニ終ルヘシ依テ諸種ノ事情ニ依リ其軍備ヲ極端迄縮少シタル國ハ緊急ノ場合之ヲ充分擴張シ得ヘキ措置ヲ講シ置クコト蓋シ止ムヲ得サル必要ニシテ若シ軍縮條約ニ依リ此等ノ國カ數年ニ互リ擴張ノ自由ヲ拘束セラルヘシトセハ會議ニ於テ其劣弱ナル現勢ヲ維持センカ爲充分ナル措置ヲ講セサルヘカラス伊太利ハ各國軍備比率決定ニ當リ何等ノ特權ヲ主張スルモノニ非ルモ各種ノ現勢ヲ綜合シ他ノ大陸諸國ノ何レヨリモ劣レル軍備ヲ保有スルコトヲ得ス此範圍ニ於テ伊國ハ如何ナル縮少ヲモ甘受スルモノナルヲ宜言スト述フ

米國代表ハ準備委員會第一回會議ニ於テ米國代表ヨリ直チニ條約草案作成ニ著手スヘシトスル提議ヲ爲シタル事實ヲ指摘シ今同英佛代表ニ於テ此方法ヲ執リ草案ヲ提出セラレタルハ同慶ニ堪ヘスト述フ

帝國代表ハ英佛側今回ノ提案ニ對シ各代表ト共ニ贊辭ヲ呈スルモノニシテ今回ノ會議ニ於テ良ク兩案ヲ結合シテ本會議討議ノ基礎トナルヘキノ條約案ヲ作成スルニ至ランコトヲ冀望シテ止マスト前提シ日本政府ハ規約第八條ニ依リ各國ノ保有スヘキ兵力ハ結局ハ各國自身ノ決定スル所ナルヲ要シ外部ノ強制ニ依リ一國軍備ノ制限ヲ爲ストキハ此國ハ各種ノ手段ヲ設ケテ軍備ノ不足ヲ補ハントスヘク此ノ如キハ結局軍備自由ノ現狀ニ劣ルモノト信ス軍備ノ縮少制限ヲ實行のナラシメトセハ此方式ハ實際ニ適用實施シ易キモノヲ選ハサルヘカラス複雜ナル方式ヲ執ラハ必スヤ各國國情ノ相異ヨリ生スル各種ノ障害ニ逢著シ軍縮事業ヲ遲延セラムルニ至ルヘシ此點ニ於テ英國側ノ條約草案ハ細目ニ於テ異論ナキニ非ルモ大體ニ

於テ簡單適切良ク本委員會討議ノ基礎タルヘキヲ認ムト述ヘタリ

獨代表ハ世界ノ視聽殊ニ平和條約ニ依リ軍備ノ縮少ヲ強制セシメラレタル諸國ノ輿論ハ本委員會ノ事業ニ集中セラレ居レリ殊ニ條約ニ依リ完全ニ軍縮セラレタル獨逸ハ自國ノ軍縮カ平和條約ノ條項ニ依リ世界ノ一般の軍縮ノ前提タルヘシトノ信條ヲ固守シ此點ニ關シ絕對ノ信賴ヲ置クモノナリ軍備縮少ノ基礎ハ規約ノ精神ニ基キ一國ノ兵力ヲ國際聯盟ノ使用シ得ヘキ兵力ヨリ大ナルヘカラストノ根本原則ニ存セサルヘカラス此原則ノ適用ヲ謬ランカ聯盟ノ活動全ク阻害セラルヘシ次ニ委員會ノ作成スヘキ條約案ハ問題ノ全部ニ互ルモノナラサルヘカラス吾人ハ軍備ノ制限ノ效用ヲ認メサルニ非ルモ世界ノ現勢ハ決シテ此不徹底ナル制限ヲ以テ満足スヘカラス進テ平和維持ニ關スル國際聯盟ノ使命ヲ完カラシメ各國軍備ノ不均衡ヨリ生スル危險ヲ避クル爲全部ニ互ル軍備ノ現狀ニ改訂ヲ加ヘサルヘカラス此根本原則ハ委員會ノ頭初ニ於テ充分之ヲ明瞭ナラシメ置カサルヘカラス軍縮問題ノ解決ハ聯盟事業ノ試金石タリ規約第八條ハ軍備縮少ヲ聯盟事業ノ第一ニ掲ケ「ロカルノ」條約ニ於テモ各種約國ハ聯盟ノ企圖シタル本事業ニ協力スヘキコトヲ誓約セリ云々ト論ス

波蘭代表ハ軍縮事業ノ成功ヲ期セントセハ規約ノ根本主義ト政治ノ實際トニ留意スルヲ要ス然ラサレハ軍縮ニ依リ幾多ノ犧牲者ヲ生スヘシト前置シ波蘭カ第十七、八世紀ニ於テ強大ナル軍備ヲ有スル大國ノ間ニ介在シ何等正規ノ兵力ヲ有セザリシ爲悲惨ナル運命ニ陥リタルノ歴史ヲ敘述シ波蘭ハ欣然軍縮ノ事業ニ協力スルノ覺悟アルモ軍縮ニハ充分ナル安全ノ確保ナカルヘカラサルヲ痛感スルモノニシテ軍縮事業ハ國際間ノ相互扶助及各國ノ心理及死活ノ欲求ヲ充分ニ了解スルニ非レハ其ノ成功ヲ期スヘカラスト唱破シ次ニ軍備ノ縮少ナル觀念ハ政治的經濟的財政的其他ノ要素相錯綜シ複雜ヲ極メ目下ノ現勢ニ於テ之ヲ實現スルコト困難ナルヘク委員會ノ任務トスヘキハ先ツ第一步トシテ軍備ノ制限ニ満足シ軍備競爭ヲ防止スル有效ナル方法ヲ探求スルニ在ルヲ確信スト結フ

羅馬尼亞代表ハ英佛案其兵器取引取締條約第二十九條ノ如キ規定存セサルヲ指摘シ此種規定ハ羅馬尼亞及其ノ隣國ノ現狀ニ鑑ミ必要缺クヘカラサルニ付適當ノ機會ニ之カ挿入ヲ主張スヘシト述ヘタル後安全ト軍縮ノ關係ニ言及シ軍縮ヲ談スルニ當

リ安全ノ問題ヲ併セ論スルノ必要ハ敢テ贅言セス既ニ規約及壽府議定書ノ根本原則ナリ此原則ハ幸ニシテ英佛案ノ前文中之ヲ認メラレ居ルモ尙一層廣汎完全ニ記入セラレ以テ羅馬尼其他關係國ノ欲求ヲ満足セラレンコトヲ望ムト述ヘ又英佛案ニハ各國軍備ノ比率ヲ決定スヘキ基礎法則ナキモ此點ニ關シ何等カノ形式ニテ條項ヲ挿入スルコト必要ニシテ斯クテ第一小委員會ノ研究ヲ實際化セシメ軍縮事業ノ遂行ヲ完全ナラシメ得ヘキヲ信スト論ス

希臘代表(希臘ハ委員會ニ出席シ居ラサルモ特ニ許サレテ發言ス)ハ軍縮問題カ其可能ナリヤ否ヤヲ論スルノ時期ヲ脱シ既ニ其ノ實行期ニ入レルヲ祝福スルモノニシテ若シ軍縮條約カ軍事財政經濟ノ全部ニ互ル廣汎ナル相互援助計畫ヲ前程トスルモノナルニ於テハ希臘政府ハ直ニ之ニ加入セントスルモノナリ此點ニ於テ芬蘭ノ提案ニ對シ滿腔ノ賛意ヲ表ス又軍縮會議ノ成功ヲ期セントセハ軍縮ノ對價トシテ安全ヲ確保セサルヘカラス即一國カ侵略ヲ受クル場合之カ救援ニ赴ク兵力ノ到達スル時間ヲ各國ニ付考慮スルヲ要ス此點ニ於テ希臘政府ハ侵略ノ場合之ニ對シ二十四時間對抗シ以テ他ノ聯盟國ノ來援ヲ待テ得ル程度ノ軍備ヲ一國ニ許與セサルヘカラサルヲ信ス要スルニ希臘政府ハ他ノ諸國ノ承認及安全ノ確保ヲ條件トシテ軍備縮少ニ贊同スト陳述ス

瑞典代表ハ吾人ノ軍縮事業ノ目的ハ要スルニ完全ナル軍備縮少ニ至ル一段階ヲ爲スニ在リ現時ノ不安定ナル政情ハ徹底セラル軍備ノ縮少ヲ期待スヘカラス此觀念ヲ出發點トシテ軍縮條約ノ範圍ヲ考フルニ條約ハ平時軍備ノ總テノ主要ナル要素ニ及ハサルヘカラスト論シ陸海人員海軍々々備ノ各要素ニ付自國ノ小委員會ニ於テ主張シタル制限方法ニ付詳細説明ス

和蘭代表ハ英佛代表ノ爲シタル條約草案提出ノ舉ニ謝意ヲ表シ瑞典代表ノ所說ノ大體ニ贊同シ和蘭ハ條約案成立ノ目的ヲ達成スル爲ニハ總テノ讓歩ヲ惜マスト述フ

支那代表ハ支那カ面積廣大ニシテ大陸國タルト共ニ長キ海岸線ヲ有スルヲ以テ之ヲ防禦スル爲陸海空ノ兵力ヲ必要トス或ハ支那ヲ目シテ世界最大ノ陸軍兵力ヲ有スト云フ者アルモ支那ハ目下ノ過渡時代ヲ經過セハ事情著ク變化シ兵力モ舊ニ復

スルニ至ルヘシ次ハ海空ノ兵力ハ目下ノ所云フニ足ラサルモ將來此方面ニ於テ充分ノ設備ヲ爲スノ要アルヲ認ム尙支那ハ他ノ諸國ニシテ同意ナラハ軍備ノ撤廢ニ贊成スルヲ躊躇スルモノニアラスト辯ス

「セルブ、クロアチア、スロヴェニア」代表ハ塞國ハ佛國提案ニ全然左擔スルモノニシテ軍備制限ニ一國ノ安全ヲ考慮セサルヘカラサルノ原則ニ付佛國代表ノ所說ヲ聽キ欣懷ニ堪ヘス唯「セルビア」ハ「ロカルノ」條約ノ圈外ニ置カレタル爲何等安全確保ノ惠遇ニ浴スルコトヲ得サリシヲ以テ唯聯盟ノ力ニ依リ自國ノ安全ヲ確保スルノ外ナキ狀況ニ在ルヲ注意シ度シ佛國ノ提案ハ又積極的ニシテ且實際的ナル點ニ於テ傑出ス即陸軍兵力ニ付テハ制限ノ目的ヲ軍旗ノ下ニ在ル兵力ニ限リタルコトコレナリ空軍ニ付テハ自國ノ民間航空ノ發達ノ現狀ニ鑑ミ佛案ニ稍不滿ノ感ナキニアラス海軍ニ付テハ佛案ノ認ムル總噸數主義ハ良ク小國ノ要求ニ合致スルモノト認ムト述フ

「チェコスロヴァキア」國代表ハ軍縮ニ關スル「チェッコ」政府ノ一般的見解ハ從來縷述セルニ付今更繰返サス安全ト軍縮トノ關係ニ付テモ前回會議以來認メラレタル原則其後何等ノ變化ヲ受ケス英佛兩代表亦此原則ヲ認メタルハ頗ル欣懷ナリ唯英佛兩案ハ各國カ其軍備ヲ一定ノ限度以上ニ増加シ得サルノ原則ヲ示スノミニシテ各國ニ充當スヘキ軍備ノ最大限度ヲ定ムル標準ヲ示シ居ラス委員會ハ條約案作成後此點ヲ論議スル必要アルヲ痛感スルモノニシテ尙一步ヲ進メ締約國ハ其ノ軍備ノ最大限度ヲ定ムルニ當リ最後ノ決定權ヲ有スルヲ以テ自國ノ安全ノ程度ヲ參酌シ之ヲ決定シ得ルノ原則ヲ此際闡明スルコト肝要ナリト信スト論ス

白國代表ハ白國カ古來其ノ過剩ノ人口ト狹隘ナル國土ヲ以テ生存ノ必要上自由ノ確保平和ノ存續ニ努力シ來レルヲ高調シタル後委員會今後ノ事業遂行ノ方策ニ言及シ委員會ノ任務ハ頗ル複雜廣汎ニシテ殆ト聯盟活動ノ總テノ方面ヲ包含スト云ヒ得即財政的軍縮アリ經濟的軍縮アリ精神的軍縮アリ然レトモ吾人ノ企圖スヘキハ軍事の軍縮及之ト密接ノ關係アル諸問題ニ限ラサルヘカラス此意味ノ軍縮ニ付テ其各種ノ要素ニ付一言セシニ海軍ニ付白國ハ其全部ヲ撤廢シタルヲ以テ之ヲ論セス陸軍ニ付テハ英佛案ハ共ニ人員ノ制限ヲ爲スニ止ルノ點ニ於テ一致スルモ他ノ方面ニ於テ著シキ差異アリ之カ融合調

和ハ頗ル困難ナリト云ハサルヲ得ス佛案ノ平時兵力ニ限局セントスルノ主義ハ簡單明瞭ナルモ英案ハ一歩進ミ既教育豫後備兵ニモ及ホサントス唯英案ハ陸軍人員ノミニ限り海空兩軍ニ及ハサルハ却テ佛案ニ劣レルモノト云フヘシ然レトモ英案ニ依ルトキハ動員後一定期間内ニ戦線ニ輸送シ得ル兵力ナルモノノ算定ノ方法如何ニ付至難ナル問題ヲ生ス即前問題トシテ何カ戦線ナリヤノ主義ヲ示ササルヘカラス此點ニ於テ島國タル英國ト他ノ大陸諸國トノ間ニ大ナル差異アルヲ知ルヘシ又戰場ニ送り得ル人員ナルモノノ算定ノ基礎ヲ發見スヘキヤ等ノ難問ヲ生ス英國代表カ現有兵力ヨリ一歩進ミ一國戰時ノ兵力ヲ制限セントスル努力ハ良ク之ヲ諒解スルモ此ノ如キ直接制限ニ依ラストモ佛案ノ認ムル兵役年限豫算等ノ制限ノ方法ニ依リ間接ニ目的ヲ達シ得ルニ非ルヤ又其他ニモ毎年ノ徵集人員ノ削減服役年限ノ短縮等ノ方法ハ多少ノ短所アリトスルモ又既教育豫後備兵ノ制限ニ間接ニ與リテ力アルヲ認メサルヘカラス次ニ器材ニ付テ一言センニ陸軍用器材ノ直接制限ノ實現シ難キハ勿論ナルモ既ニ締結セラレタル兵器取引取締條約及近ク締結セラルヘキ兵器民管取締條約ノ批准實施ノ上ハ器材ノ製造輸出入ノ數量ヲ完全ニ知り得ヘク以テ此點ニ關スル軍縮條約ノ缺陷ヲ補ヒ得ヘク又佛案ニ從ヒ豫算制限ノ方法ヲ執ラハ之カ監視一層有效ナルヘシト述フ

芬蘭代表ハ軍縮事業ノ根本ハ畢竟將來侵略戰爭危險ヲ防止シ又ハ之ヲ絶滅セシムルニ在リ軍縮ノ目的タリ得ヘキモノハ平時ノ軍備ニ限ルヘキ事勿論ナルモ之カ制限ニ付テハ其ノ平時ノ軍備ヲ急速増加シ戰爭ノ用ニ供スルコトヲ防止スヘキ方式ヲ選ハサルヘカラス又軍縮條約ノ實行ニハ何等カノ形式ニ依ル國際監視ノ制度ヲ樹立スルコト肝要ナリト信ス又芬蘭ハ特殊ノ地位ニ鑑ミ他ノ歐洲諸國ト同ク安全ノ確保ニ重キヲ置クモノニシテ此點ニ付被侵略國財政援助ニ關スル芬蘭ノ提案カ理事會ノ採用スル所トナリ目下財政委員會ニ於テ著々研究中ナルヲ見テ満足ニ堪ヘス他方理事會ハ芬蘭提案ニ關スル決議ヲ準備委員會ニ同付シ來レルニ付適當ノ機會ニ於テ之ヲ審議セラレ不利益ノ地位ニ在ル諸國ヲ救援スル適當ノ方策ヲ講究セラレン事ヲ望ムト述フ

智利代表ハ南米諸國カ本問題ニ關シ特別ノ地位ニ在ルコトヲ説明シ左ノ結論ヲ列舉シ委員會ノ注意ヲ喚起ス

- (1) 南米諸國內ノ軍備競爭防止ニ關スル地方的協定締結ヲ推奨スルコト
- (2) 軍備制限ヲ安全ノ要求ニ伴ハシムルコト此點ニ於テ南米諸國ハ歐洲諸國ト異ル地位ニ在ルコト
- (3) 安全ニ基ク軍備ノ算定ハ或南米諸國ニトリテハ經濟的且人口の見地ヨリモ寧ロ地理的位置及政治的要素ニ依リ解決シ得ルコト

尙同代表ハ軍縮事業ト併セ此等地方協定ヲ準備セントスルニ當リ伯刺西爾ノ準備委員會ニ來ラサルヲ遺憾トスト述フ右ニテ大體一般討論ヲ終リ委員會ノ討論手續ノ決定ニ移レリ

第三節 委員會ノ審議手續ノ決定

英佛兩代表ヨリ提出ノ委員會討議ノ基礎タルヘキ條約草案ニ關スル委員會ノ討議ノ手續ニ付テハ三月二十四日午後ノ會議ニ於テ瑞典代表ヨリ一ノ提案ヲ爲シ委員會事務局即議長及兩副議長ニ於テ兩案ヲ分析比較シ一ノ對照表ヲ作成其各事項ニ付討議センコトヲ主張シタル處波蘭代表先ツ之ニ贊成シ白國代表モ亦此方法ニ依リ著ク相異レル兩案ヲ一括審議スルヲ得ヘシトシ且委員會討議ニ當リテハ審議ヲ公開シ會議ノ經過ヲ明ニシ若シ不幸會議不成功ニ終ラハ其ノ因テ來ル原由ヲ輿論ノ前ニ表明スルヲ要スト述フ英國代表ハ軍縮事業ハ其細目ノ事項相互相關連スルニ付個々ノ事項ノ最終決定ハ全部ノ議事ヲ以テ一括之ヲ爲スノ方法ヲ執ルコト絕對ニ必要ニシテ且從テ決定ニ當リテハ多數決ノ方法ヲ執ルコト不可ニシテ少數ノ内ニ強大國ヲ含ムトキハ軍縮協約ノ運用全ク阻害セラルルニ至ルヘシト論シ白國代表ハ之ニ對シ全然同感ノ意ヲ表シ第一讀會ニテ表明シタル意見ヲ第二讀會ニテ變更シ得ルノ餘地ヲ存シ第二讀會ニテ各章全部ノ審議ヲ了シタル後全部ニ互ル採否ノ票決ヲ爲スコトスヘシト答ヘ何等異議ナク其通り決定ス

右審議手續決定ニ基キ事務局ニ於テ左ノ通り英佛兩案ノ分析索引及分析對照表ヲ作り之ヲ審議ノ基礎トスルコトナレリ

- (一) 英佛兩案分析索引 (C.P.D./44)
- (二) 英佛兩案分析對照表

- (イ) 陸軍人員ノ部 (C.P.D./45)
 (ロ) 海軍々備ノ部 (C.P.D./45(a))
 (ハ) 空軍々備ノ部 (C.P.D./45(b))
 (ニ) 軍事費ノ部 (C.P.D./45(c))
 (ホ) 條約實施ニ關スル部 (C.P.D./45(d))
 (ヘ) 前 文 (C.P.D./45(e))

第二章 陸軍軍備制限

第一節 人員ノ制限

佛國委員ハ陸海空軍人員ノ總括制限ヲ主張シタルモ英國委員ハ目下ノ主題ハ陸軍人員ノミニ關スルモノニシテ三軍人員ノ總括制限問題ハ海空軍問題ノ研究ヲ終リタル後ニ讓ルヲ適當トスル旨ヲ主張シ佛國委員ハ人員問題殊ニ豫後備兵ハ三軍間ニ密接ナル關係ヲ有シ海軍空軍人員ヲ制限セスシテ陸軍人員ノミヲ制限スルノ不可能ナル理由ヲ擧ケ人員問題ハ之ヲ三軍同時ニ解決セサルヘカラサルヲ主張シタルモ結局佛國委員ハ陸軍人員ノ制限ハ海空軍人員ノ制限ヲ伴フヲ條件トストノ留保ノ下ニ先ツ陸軍人員ノミヲ取扱フコトニ同意セリ

第二節 豫後備兵ノ制限

英國ノ提案ハ陸軍人員ノ制限ヲ開戦後一定ノ期間内ニ一國ノ戰線ニ使用シ得ル兵員ニ對シ行ハントスルモノニシテ其主ナル理由ハ開戦當初ニ於ケル侵略武力ニ制限ヲ加フルヲ以テ軍縮會議ノ主ナル目的ナリト云フニ在リ米獨和瑞典代表亦豫後備兵制限ノ必要ナル理由ニ擧ケテ之ニ贊成シ日佛伊等ハ之カ制限實行上ノ重大ナル困難ヲ述ヘ徵兵制度國ニ於ケル豫後備兵ノ制限ハ結局平時人員制限ヨリ來ル自然ノ結果ナラサルヘカラストシテ之ニ反對シ殊ニ英國ノ提案ハ豫後備兵問題以外

ニ

- (イ) 開戦後一定ノ期間内ニ擧ケ得ル一國ノ兵員ハ獨リ軍隊内ニ於テ教育ヲ受ケタルモノニ止マラス戰爭發生ノ情況ニヨリテハ全ク軍隊教育ヲ受ケサル幾多ノ人員ヲ使用スルコトアルヘキニヨリ其範圍ヲ定ムルノ殆ント不可能ナルコト
 (ロ) 國防ノ諸條件ヲ根本的ニ異ニスル各國ニ對シ一律ニ一定ノ期間ヲ定ムルコトハ不可能ナルノミナラス無意味ナルコト

(ハ) 國家ノ全活力ヲ擧ケテ戰フ現時ノ戰爭ニ於テ戰線ナル意味ニ區劃的定義ヲ下スコトハ不可能ナルコト

等ノ諸難問ヲ含ムコトヲ指摘シ結局平時人員ノミヲ制限セントスルコトハ委員會大部ノ認ムル所トナリ制限ノ範圍ヲ佛案ニ據ル平時人員ニ限定スルコトニ落着シ英米獨國ハ之ニ對シ第二讀會ニ於ケル討議ノ自由ヲ留保セリ但シ英國委員ハ其後人員制限ニ關スル其提案ヲ固執スルコトナカルヘキ意味ノ意嚮ヲ洩セリ

第三節 陸軍人員ノ領土の區別制限

英國ノ提案ハ本國陸軍人員ノ制限ノミヲ企圖シ海外殖民地軍ノ制限ハ之ヲ考慮ニ容レサルニ反シ佛國案ハ本國軍、本國ニ駐在スル海外殖民地増援軍、海外殖民地軍ニ分チ其各々ニ對シ制限ヲ加ヘントスルモノナリ

英國委員ハ佛案ニ對シ主トシテ其國內の特種事情即チ海外殖民地軍ハ主トシテ該領土ノ治安維持ニ使用セラルルコト及秩序紊亂ノ際ニハ本國軍ノ増援ヲ要スルヲ以テ殖民地軍ニ對シ超過スヘカラサル一定數ヲ以テ制限スルコトハ困難ナリト理由ヲ以テ之ニ反對セリ又伊國委員ハ戰時ニ於ケル殖民地軍ノ用途ヨリ立論シ殖民地軍ニシテ全然其領土ノ守備ニノミ充當セラレ本國軍ノ増援ニ使用セラルルコトナキ場合ニ於テハ之カ區別的制限ハ首肯シ得ルモ本國ニ近接シ世界大戰ニ於ケル如ク開戦後間モナク逐次本國ノ作戰ニ參與スルノ可能性アル殖民地軍ハ之ヲ本國軍ト同一ニ見做スヘキ性質ノモノニシテ又殖民地ニシテ其本國ト遠隔シアル場合ト雖他國領土ニ近接シアルニ於テハ此殖民地軍ハ本國軍ノ前衛トシテ使用セラレ得ルコトアルヲ以テ此等殖民地軍ヲ本國軍ト區別スルハ適當ナラスト主張シ又米國委員ハ本國軍殖民地軍ノ區別的制限ニ

ハ強テ反對セサルモ兩者ノ關係ニ於ケル各國ノ特種事情ヲ拘束セサル爲メ總括的制限方式ヲ以テスルヲ望マシキ旨ヲ述フ
佛國代表ハ領土の區別制限ノ理由トシテ

(イ) 組織、任務ノ性質ヲ異ニスル諸領土軍ノ制限實施ヲ明確ナラシムルコト

(ロ) 各異ノ情態ニアル該領土ノ保有スヘキ兵力ニ對シ理由ノ提供ヲ容易ナラシムルコト

(ハ) 英國代表ノ主張スル一國ノ侵略武力ハ本國軍ニノミ關係スルモノナレハ各別制限ヲ以テ本國軍ノ人員ノ最高額ヲ限定スル必要アルコト

等ヲ舉ケテ反對論ニ酬ヒ又其ノ適用上ニ關スル異論ニ對シテハ原案ニ若干ノ修正ヲ加フルコト等ニヨリ満足ヲ與フルヲ得
ヘシトシ結局本國軍海外領土軍ヲ總括シタル最大限數ト本國軍ノミノ最大限數トヲ以テ制限シ海外領土軍ノ爲ニハ最大限數ヲ定メサルコトトシテ兩者間ニ融通ノ自由ヲ與ヘ更ニ條文ヲ以テ國家ノ安全之ヲ要求スル場合ニ於テ本國軍及海外領土軍ノ爲メニ定メタル最大限數ハ之ヲ變更スルコトヲ得此狀態ハ年度通報ニヨリ明カナラシムヘキ旨ヲ規定シタルニヨリ委員會ハ伊國ノ保留ノミヲ以テ之ヲ可決シタリ

領土の制限問題ニ關シテハ可成總括制限ヲ希望スル旨ノ訓令ニ接シタル所事變ニ際シ本國軍ト海外領土軍トノ間ノ融通ニ就キ各國ノ自由ヲ尊重スルコト前記ノ如クナルニヨリ右決議ハ訓令ノ主旨ニ副フノミナラス朝鮮ヲ本國軍ト見做ス場合ニハ比隣ニ他國ノ殖民地ヲ有スル我國トシテ對他關係ニ重キヲ置キテ考慮スルノ必要アルヲ認メ大體之ニ同意シ置ケリ

第四節 陸軍人員ノ階級の區別制限

陸軍人員ノ制限ヲ將校下士卒ニ區別シテ行フノ原則ニ對シ委員會ハ全員一致之ヲ認メタリ然レトモ英國案ハ將校下士兵卒ノ比率ヲ以テ制限セントシ然モ此比率ハ全締約國ニ對シ同一ナラシメントスルモノナルヲ以テ日佛伊其他大部ノ國ハ國情ヲ異ニスル各國ニ同一ノ比率ヲ適用スルノ不可能ナルコト及比率ヲ以テスル制限ハ徵兵制度採用國ニ於ケル兵役年限ノ短縮ト相容レサルノ理由ヲ以テ之ニ反對シ結局佛案ノ如ク將校下士人員ヲ各別ニ制限シ又長期服役ノ兵卒人員ヲ特記スルコト

トニ一致セリ(長期服役ノ兵卒トハ締約國中ノ徵兵國陸軍ニ於ケル最モ長キ在營年限ヲ超過スルモノヲ云フ)

之ヲ要スルニ將校下士ノ區別制限ハ本邦ノ爲メ好マシカラサル案ナルモ其條文ハ「將校下士ノ人員カ各國軍ノ正當ナル必要ヲ超過スルコトヲ避クル爲メ云々」ト云フニ在リテ正當ナル必要數ハ本會議ニ於テ之ヲ要求スルコト困難ナラスト認メタルニヨリ之ニ同意シ置ケリ又長期服役兵卒ニ關スル件竝ニ軍事的組織ヲ有スル團體ニ關スル件ハ我國ニ關係ナキヲ以テ別ニ意見ヲ述ヘサリキ

第五節 兵役年限ノ制限

委員會一般ノ意嚮ハ兵役年限ノ制限ニ強テ反對セサルモノト察セラレタルニヨリ本使ハ劈頭左ノ理由ヲ以テ本制限ノ主義ニ反對シタリ

(1) 兵役年限ハ各國ノ複雜ナル特種ノ事情ニ基キ定メラレアルヲ以テ公正ナル相對的制限ノ基礎タル比較標準ヲ得ルコト極メテ困難ナルコト

(2) 大戰後特ニ各國ニ於テ軍事豫備教育ノ盛ニ行ハルルノ事實ハ兵役年限ニ重大ノ關係ヲ齎ラシ爲メニ之カ短縮ノ效果ヲ疑問タラシムルノミナラス此事實ハ兵役年限ノ比較ヲ更ニ困難ナラシムルコト

(3) 一國ノ總兵員ハ國防上ヨリ打算セラルルモノナルヲ以テ此總兵員數ヲ定メタル後兵役年限及年度徵兵人員ヲ按配スルヲ原則トス從テ年度壯丁ノ一部ヲ徵集スルニ過キサリ國ニ於テ兵役年限ヲ短縮スル時ハ年度徵集人員ノ増加ヲ來タシ其結果ハ豫後備兵ノ増加トナリ又壯丁ノ最大限ヲ徵集スル國ニ於テ兵役年限ヲ短縮スル時ハ志願兵數ノ増加ニヨリ總員ノ不足ヲ補ハサルヘカラサルニヨリ其結果ハ却テ軍費ノ増加ヲ招キ何レノ場合モ軍備制限ノ目的ト相馳背スルノ結果ヲ招クコト

(4) 世界大戰後多數ノ國ハ自發的ニ國家安全ノ許ス最小限ニ軍備ヲ縮少シツツアルハ爭フヘカラサル事實ニシテ特ニ兵役年限ハ內政的關係上之カ短縮ニ努メツツアルヲ以テ此喜フヘキ現象ヲ看過スヘカラサルコト

(5) 右ノ如ク兵役年限ハ公正ナル相對的制限ヲ行フコト困難ナルノミナラス其實行ハ或ル場合ニ於テ軍備制限ニヨリ獲
ントスルモノト反對ノ結果ヲ招クノ恐アリ加之本要素ニ對シ特ニ各國カ自發的制限ニ努メツアル現況ニ鑑ミ之ヲ各
國ノ自由意思ニ委スルヲ最モ賢明ノ策ナリト認ム

然ルニ白國委員ハ佛案中「兵役年限ハ表ニ定ムル所ニ從フ」ナル字句ハ兵役年限短縮ヲモ禁スルモノト解セラルルノ不都合
アルヲ以テ各國ハ條約有期間兵役年限ヲ短縮スルヲ得ルモ之カ爲メ年度徵集人員ヲ増加スル能ハストノ修正案ヲ提議セ
リ之ニ對シ帝國委員ハハ一國ノ總兵員ヲ兵役年限、年度徵集人員ニヨリ動カサントスル主格顛倒ノ案ニハ絕對ニ同意スル
能ハストテ之ニ反對シ委員會ニシテ若シ「兵役年限ハ各國ノ定メタル所ニ從フ」ノ意味ニ原案ヲ修正スルコトヲ承認スル
ニ於テハ之ニ賛成スルヲ得ヘキヲ以テセリ

英國代表ハ帝國委員ノ修正案ノ主旨ニ全然同意ナル旨ヲ以テシ但シ條約文中ニ締約各國カ之ヲ定ムトノ字句ヲ使用スルハ
穩當ナラサルニヨリ締約國ノ各々カ「承認」シタル云々ト改メ日本委員ノ承認ヲ切望スル旨ヲ述ヘタルニヨリ此修正案ヲ
承認シタリ

尙佛案ノ兵役年限制限案ハ現役在營日數及豫後備兵ノ召集日數ヲ加算シタル日割平均人員ヲ以テ制限セントスルモノニシ
テ豫後備兵制限ニ對シ相當ノ考慮ヲ拂ヒアル案ナリト認メラレ此程度ノ制限ニモ反對スルコトハ全般ノ形勢上適當ナラサ
ルノミナラス本會議ニ於テ必要ノ豫後備兵召集日數ヲ在營年限ニ加算シテ要求スルコト困難ナラサルヲ認メ之ヲ承認スルコ
トトシタリ

又豫後備兵召集ニ關スル通報モ豫後備兵制限問題カ特ニ委員會ノ重大問題トナリタル關係上其ノ通報ヲモ否認スルコトハ
適當ナラスト認メ之ヲ承認シ置キタリ

第六節 陸軍器材ノ制限

獨逸委員ハ人員及器材ハ軍備ノ二大要素ナルヲ説キ海軍空軍ニ於ケルト同様陸軍モ亦人員ノミナラス器材ヲ制限スルノ必

要ナルヲ力説シ特ニ開戰當初豫後備兵ノ裝備ニ充當セラレアル貯藏器材ヲモ併セ制限セサルヘカラサルヲ以テシ小銃、機
關銃、各種火炮、戰車ノ其最大限數及各々其該當彈藥最大限數ヲ制限スルノ案ヲ提出シ米和蘭瑞典等亦之ヲ支持セリ
獨逸ノ本提案ハ豫算ヲ以テ器材ヲ制限セントスル佛國案ノ對案トシテ豫算ノ討論中ニ提出セラレタルモノニシテ委員會中
器材ノ直接制限ニ反對セルモノハ豫算ヲ以テスル間接制限ニ賛成シ豫算制限反對者ハ器材直接制限ヲ支持シ獨リ兩者ニ反
對セシハ帝國ノミニシテ困難ナル立場ニ陷リシモ右提案討論ノ劈頭ニ於テ本使ハ陸軍器材ノ制限ヲ貯藏器材ニ迄擴張セン
トスル獨逸ノ提案ハ帝國政府ノ承認スル能ハサル所ナリト簡單ナル聲明ヲ以テ斷然之ヲ拒絕シタル所大ナル議論ヲ惹キ起
スニ至ラスシテ獨逸委員ハ第二讀會ニ至リ再提議ヲ爲スノ保留ヲ以テ之ヲ撤回セリ

第七節 器材ニ關スル通報

和蘭委員ハ陸海空軍ニ屬スル兵器彈藥ニ關シ貯藏支給ノ分ヲ合シ其一切ヲ公報スヘキ案ヲ提出シ獨逸瑞典ハ直チニ之ニ贊
成セリ本案ハ表面上有力ナル理由ニ立脚スルヲ以テ之カ反對者モ頗ル當惑シ先頭ニ立テ之ニ反對スルモノナカリシカ帝國
委員ハ劈頭貯藏器材ノ公表ハ國防ノ秘密ニ觸ルルヲ以テ帝國政府ハ之カ公表ヲ誓約スル能ハストテ之ニ反對シタリ

和蘭委員ハ之ニ對シ本案ハ委員會ノ全會一致ヲ以テ可決スルコトヲ信シテ疑ハサリシニ日本委員ノ反對ヲ見タルハ意外ト
スル所ナリト前提シ聯盟規約第八條末項ニ於テ聯盟國ハ軍備ノ程度ヲ毫モ隔意ナク最モ完全ニ通告スルノ義務ヲ負擔シア
ルヲ以テ聯盟ノ一員タル日本ハ第八條ノ誓約ニ基ク本提案ヲ拒絕スルコト能ハサルヘキヲ以テシ又獨逸委員ハ軍備制限ト
國防ノ秘密トハ相容レストシ瑞典委員ハ公表ノ「リスト」ヲ今少シ單簡ナラシムルニ於テハ日本委員モ同意ヲ與ヘ得ヘシト
信ストテ調停ノ態度ニ出テタリ

帝國委員ハ右ノ反駁ニ對シ左ノ要旨ノ聲明ヲ爲セリ

帝國ハ國際聯盟ノ一員トシテ第八條ノ末項ニ基キ情報交換ヲ行フヘキヲ誓約スルト共ニ第八條第一項即チ國家ノ軍備ハ
國家ノ安全國際義務ノ遂行ト相容ルル最少限度ニ縮少スルコトヲ誓約セリ帝國委員ノ解釋ニヨレハ本第一項ハ第八條ノ

根本精神ニシテ國際聯盟ハ侵略行爲ヲ絶對ニ否認スルモ國家ノ正當防衛權ハ完全ニ之ヲ認メ軍備ノ制限ハ之レト相容ルル範圍内ニ於テ實行セシコトヲ企圖スルモノナリ而シテ一國カ其國ノ軍備ヲ以テ安全ヲ保障セサルヘカラサル現狀ニ於テ聯盟力之ニ伴フ各國々防ノ秘密ヲ完全ニ尊重スルハ言フ俟タサル所ナリ獨逸委員ノ軍備制限ト國防ノ秘密トハ相容ラストノ言ハ或ハ事實ヲ穿チタルモノナランモ本委員ハ事ロ國防ノ秘密ト國家ノ安全トハ亦相容レスト爲スヲ適當ト信ス即チ安全ニシテ保障セラレサル限り國防ノ秘密ハ常ニ存在シ軍備ノ制限ハ國家ノ安全ノ度ニ伴ヒ國家安全ノ度増大スレハ國防上ノ秘密ハ遞減ス又瑞典委員ノ好意的調停ハ之ヲ感謝スル所ナルモ「リスト」ヲ簡單ナラシムレハトテ國家ノ安全ハ増サルヲ以テ乍遺憾之ヲ承認スル能ハス

和蘭委員ハ委員會ノ沈黙ヲ以テ委員會ノ全部カ其提案ニ賛成シアル如ク信セラルルモ本委員ハ本委員ト同様ノ意見ヲ有セラルル多數ノ委員アルヲ信スルモノナリ

之ヲ要スルニ聯盟力軍備制限ノ具體的事業ニ着手シタルハ今回ヲ以テ嚆矢トシ此重大且ツ困難ナル事業ニ對シ最初ヨリ完全ナル成果ヲ求メントスルノ過望ニシテ慎重序ヲ遂フテ進ムノ必要ナルヲ認ムルモノナリ此見地上帝國委員ハ現下ノ狀況ニ於テ和蘭提案若クハ之レト類似ノ案ヲ承認スルコト不可能ナリト

佛國委員ハ帝國委員ノ聲明中特ニ軍備ノ制限ト國家ノ安全、國家ノ安全ト國防ノ秘密、規約第八條第一項ト其末項トノ間ニ存スル密接ナル關係ニ就キ帝國委員ノ述ヘタル所ニ全然同意ナル旨ヲ述ヘ更ニ第八條末項ハ軍備ノ程度ト云フニアリテ和蘭提案ノ如キ「リスト」ニアラサルコト及之カ公表ハ嚴密ナル監督ヲ伴ハサルヘカラサルノ不利ニ舉ケ伊國委員亦全然帝國委員ノ意見ニ賛成ナル旨ヲ述ヘテ和蘭案ニ反對シタルニ依リ蘭案ハ遂ニ全會一致ノ賛成ヲ得スシテ了リ

第八節 陸軍軍備ニ關スル第一讀會ノ決議要旨

第一章 人 員

第A條 締約國ハ左掲ノ表(條約附錄)ニ定ムル所ニ從ヒ動員ヲ行フコトナク直チニ使用シ得ル勤務中(in service)ノ陸海

空軍人員及軍隊の組織ヲ有スル團體人員ヲ制限スルコトヲ約ス

一、陸 軍 軍 備

第一表 本國軍ノ最大人員數

第二表 本國ニ駐在スル海外領土軍ノ最大人員數

第三表 本國ニ於ケル最大總人員數

第五表 締約國ノ有シ得ル最大總人員數

第六表 本國ニアル軍隊の組織ヲ有スル團體ノ最大人員數

第七表 海外領土ニアル軍隊の組織ヲ有スル團體ノ最大人員數

註 英米獨ハ豫後備兵問題ニ關シ第A條ヲ留保ス

第H條 將校准士官下士ノ數カ各國軍ノ正當ナル必要ヲ超過スルコトナキ爲第A條陸軍軍備ニ關スル表中ニ示ス將校准士官下士ノ數ハ締約國カ超過セシメサルコトヲ約スル最大人員數ヲ示スモノトス

前項ト同一ノ理由ニヨリ其表中ニ締約國中徵兵國陸軍ニ於ケル最モ長キ現役在營年限ヨリ長期ノ服役ヲナス士卒ニ就キ各締約國カ超過セシメサルコトヲ約スル最大人員ヲ示ス(註、本項ヲ海空軍ニ適用ス)

本條第一項ノ規定ハ必要ノ修正ヲ加ヘ之ヲ海軍空軍ニ關スル表ニ適用スルモノトス(註、佛伊委員ハ本條第一第二項ノ規定ヲ承諾シ日英米ハ本條第三項ヲ承認セス)

第F條

各締約國ハ陸軍軍備ニ關スル限り若シ國家ノ安全之ヲ要求スル場合第A條諸表規定ノ範圍内ニ於テ本國及海外領土ノ間ニ於ケル兵員ノ配置ヲ變更スルコトヲ得而シテ此配置變更ノ狀態ハ第IA條ニ基ク年度通報ニヨリ明瞭ナラシム

第I條 徵兵制度ノ國ニ於テ年度徵集兵力義務的ニ服役スヘキ總期間ハ締約國ノ各々カ承認シタル數ヲ超過スヘカラス
各人ノ服役總期間トハ現役在營日數及教育召集日數ヲ通算シタルモノトス

註(一) 本條ヲ海空軍ニ適用スヘキヤ否ヤハ討論セラレス

(二) 佛委員ハ陸海空軍ヲ通シ本條ヲ適用スヘキコトヲ聲明ス

第二章 器 材

第T A 條

獨 國 提 案

締約國ハ陸軍ニ屬スル平時使用及貯藏器材ノ最大限ヲ次表ノ如ク制限スルコトヲ約ス

平時支給及貯藏器材小銃又ハ騎銃

最大限數

各種武器ニ對スル性能又ハ彈藥數

銃

機關銃又ハ自動車小銃十五珊以

下ノ加農及榴彈砲

十五珊以上ノ加農及榴彈砲

各種臼砲

戰 車

裝甲自動車

佛 國 提 案

締約國ハ本條約有效期間陸海空軍ニ於ケル戰用器材ノ維持購買製造費ヲ附表(原文參照)ノ如ク制限ス

前項ノ費額ハ本條約ノ有效年數ヲ以テ除算シ締約國ハ毎年度ノ戰用器材維持購買製造費ヲ右ノ除算額ヨリ超過セシメサ

ルモノトス但シ當該年度ニ於テ使用シ得ナリシ額ハ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

註(一) 米委員ハ陸空軍ニ於ケル平時用器材ノ外貯藏器材ノ制限ニ關シ保留ス

(二) 日伊委員ハ本條器材制限ニ關シ一般保留ヲナス

第五章 一 般 ノ 規 定

第二節 情 報 ノ 交 換

第I A 條 各締約國ハ毎年第一章第A條ノ第一、第二、第三、第五表及本條約附錄第四表(海外領土軍)ノ形式ニ從ヒ軍隊ニ勤務中ナル日割平均人員ヲ第一章第A條ノ第六第七表ノ形式ニ從ヒ軍隊の組織團體ノ現在人員ヲ豫算年度終末後三ヶ月以内ニ聯盟事務局ニ通告ス

註、本條ヲ海空軍ニ適用スルコトハ討論セラレス

第I B 條

和 蘭 提 案

締約國ハ次表ニ示スカ如ク(次表ハ原文ニツキ參照)陸海空軍ニ於ケル平時使用及貯藏器材ノ數(量)ニ關シ毎年聯盟事務局ニ通告ス

註、日伊委員ハ之ニ反對ノ聲明ヲナス

第二章 海軍軍備ノ制限

第一節 經 過 概 要

海軍軍備制限ニ關シテハ經種別制限ヲ骨子トスル英案及全噸數主義ニ依ル佛案(別項參照)ヲ基礎トシテ一般討議ヲ開始

セリ而シテ爾案ノ相違ハ主トシテ條約有效期間ニ於ケル艦艇建造計畫ヲ規定スルト否トニ存シ全噸數制限ニ依ルモ將來ノ計畫ヲ規定シ各國ニ於テ任意ニ之ヲ變更シ得サルニ於テハ結局艦種別制限ト略同一ノ結果トナルモノナリ右海軍計畫ヲ明ニシ軍備ノ安定ヲ期スルニ非サレハ各國ハ關係各國ノ海軍計畫ニ付常ニ不安ヲ感シ國際猜疑ヲ惹起シ對抗ノ計畫ノ樹立トナリ軍備競争トナルヘキヲ以テ軍備縮小ノ目的ヲ達スル能ハストノ議論ハ佛國委員ノ反省ヲ促シ若シ右海軍計畫ノ發表又ハ之ヲ條約中ニ挿入スルコトニ依リ妥協ノ見込アルニ於テハ未タ政府ノ承認ヲ經サルモ進シテ盡力スヘキ旨聲明スル所アリ英米委員モ愁眉ヲ開キタル面持ニテ大ニ之ヲ歡迎シ兎ニ角佛國ノ妥協案提出ヲ待ツテ討議ヲ再開スルコトナレリ佛國ノ妥協案ハ條約期間保有スヘキ艦艇ヲ主力艦、航空母艦、一萬噸以下ノ水上艦及潛水艦ニ區分シ國防上ノ必要ニ依リ右區分ヲ變更セントスル場合ニハ少クモ一ヶ年以前ニ之ヲ締約國ニ通知スルヲ要スルコトヲ要旨トセルモノニシテ英國委員モ大ニ同情アル態度ナリシヲ以テ充分妥協ノ基礎トナリ得ルモノト信シタリ然ルニ討議ヲ再開セル所英國委員ハ政府ノ訓令ニ依リ強硬ニ佛案ニ反對シ米國委員ハ默シテ其態度ヲ明ニセス行詰リノ形トナリタルヲ以テ帝國代表ハ頗ル之ヲ遺憾トシ妥協ヲ容易ナラシムル爲佛案ニ對スル修正案（別項參照）ヲ提議シ佛國委員ハ略之ニ同意セルモ英國ノ容ルル所トナラス又一面ニ於テ伊國委員ハ佛案ノ如ク將來ノ海軍計畫ヲ規定スルコトニハ同意スルコト能ハストテ之ニ反對シ艦艇起工六ヶ月以前ニ其要旨ヲ通知スルニ止メントスル案ヲ提出シ妥協極メテ困難ナル狀態トナリタルヲ以テ本問題ハ未決ノ儘各國ノ提案ヲ併記シ第二議會ニ於テ更ニ審議スルコトナレリ

海軍人員ノ制限ニ關シテハ主義上及實際上ノ見地ヨリ日英米ノ強硬ナル反對アリシモ之ヲ制限セサルニ於テハ某々國ニ於テハ編成上陸軍人員制限ノ拔穴トナリ制限ヲ無効ナラシムトノ議論アリシニ鑑ミ海軍人員ノ制限ハ將校下士卒ニ區分セサルコトトシ尙英米ハ軍艦ノ制限ニ於テ満足ナル妥協成立スルコトヲ條件トシ日本ハ實際上窮屈ナル制限トナラサル條件ヲ附シ同意シ伊國委員ハ三軍總括ノ制限相互ノ融通ヲ自由ナラシメント主主張シ佛國委員ハ陸軍ト同一方式ニ依リ制限セラレンコトヲ保留セルヲ以テ本問題モ未タ妥協ヲ見ルニ至ラサル情況ニアリ

第二節 英佛條約案對照(附)其ノ他ノ主要ナル提案

英

(一) 人員制限

案

佛

案

陸空軍人員ト同シク左ノ四表ニ區分シ海軍人員ヲ制限ス

本國軍

殖民地軍及其ノ補充部隊

本國ニ在ル軍隊の組織團體

(一) (ハ) (ロ) (イ) 海外領土ニ在ル軍隊の組織團體

(ニ) 右四表ハ何レモ士官下士官及兵ニ細別セル數字ヲ記載スル如クナシアリ

(二) 材料制限

(1) 艦種別噸數及合計噸數ノ制限艦種ノ區別左ノ如シ

戰艦、巡洋戰艦	裝甲海防艦	巡洋艦	航空母艦	驅逐艦 (嚮導艦ヲ含ム)	驅逐艦 (嚮導艦ヲ含ム)	水雷艇 (沿岸警備用高速艇ヲ含ム)
---------	-------	-----	------	--------------	--------------	-------------------

(1) 戰艦用艦艇一切ノ合計噸數ノ制限戰艦用艦艇ノ區分及全噸數ノ配分ハ各國ノ自由トス

- 潜水艇大
通報艇、掃海艇等
- (2) 河用砲艇（魚雷裝備ヲ許サス）
- (3) 艦種別單艦最大噸數
- (4) 艦種別備砲最大口徑
- (5) 艦艇裝備魚雷最大直徑
- (6) —
- (7) —
- (8) 代換ハ別表ニ依ル
- (9) 華府條約第十三條乃至第十八條ヲ適用ス
備考 佛國修正案及伊國案ニ就テハ第四項參照ノコト
- (2) 軍艦最大噸數
- (3) 備砲最大口徑
- (4) 制限様式ハ二欄ニ分チ之ヲ記入ス
第一欄 各國カ國防上必要トナル全噸數
第二欄 條約有效期間完了前迄ニ各國ノ保有セント
スル全噸數
- (5) 基準排水量ノ計測ハ華府條約ト同一方法ニ依ル但シ米
法ヲ用フルコト
- (6) 全噸數計測ニ方リ代換艦齡經過ノ艦艇ハ實際排水量ノ
……%トス
- (7) 喪失ノ場合ヲ除キ艦艇ハ別表ノ艦齡ヲ經過スルニ非サ
レハ代換スルコトヲ得ス
- (8) 艦齡ハ竣成日ヨリ之ヲ起算ス
- (9) —

(三) 艦船搭載ノ航空機

(四) 艦船以外ノ海軍兵器器材等

- (1) 佛國案 豫算ノ制限ニ依リ一般兵器器材ヲ間接ニ制限セントスル豫算制限案提出セラレアリ（豫算ノ部參照）
- (2) 蘭國案 一般兵器器材ノ内容詳細（兵器取引取締條約ト同一分類法ニ依ル）情報交換案提出セラレアリ（情報交換ノ部參照）

第三節 帝國ノ見解（附）列國ノ態度

帝國ノ見解
(一) 人員制限

海軍軍備ノ制限ハ艦艇ノ制限ニ依リ行ハルヘキモノニシテ人員ハ自然制限セララルモノナルヲ以テ特ニ之ヲ制限スル必要ナキニ付反對セルモ英米モ條件附ニテ同意シ從テ人員制限ニ反對スルハ帝國ノミトナリシモ後ニ條件附ニテ之ヲ承諾セリ

(二) 材料制限

(1) 海軍軍備ノ制限ハ艦艇ヲ主力艦航空母艦水上補助艦及潜水艦ノ四艦種ニ分チ艦種毎ニ其ノ合計噸數ヲ制限スルヲ最適當ト認ム從テ英案ニ就テハ艦種別隻數制限ノ主義ニ反對シ佛案ニ就テハ艦種ノ區分ヲナササルニ反對セリ

艦船搭載ノ航空機モ一般空軍中ニ入レテ之ヲ制限ス

列國ノ態度

(1) 英米二國モ帝國ト同一理由ニ依リ反對セルモ各國ニ於テ之ニ同意シ且軍艦ノ制限ニ關シ満足ナル協定ニ達スルコトヲ條件トシテ承諾セリ

(1) 英米智利及「アルゼンチン」ハ艦種別制限ニ依ラサレハ軍備競争ヲ阻止シ軍縮ノ目的ヲ達スルコト能ハストシ佛案ニ反對ス
佛伊塞國等ハ將來ノ計畫ヲ今ヨリ樹立確定スルコトノ困難ナルヲ述ヘ英案ニ反對ス

- (2) 軍艦ノ最大噸數ハ艦種別ニ之ヲ定ムル英案ニ依ルヲ可トス
- (3) 備砲最大口徑ハ艦種別ニ之ヲ定ムル英案ニ依ルヲ可トス
- (4) 英案ノ艦艇搭載魚雷最大直徑ヲ定ムルコトヲ承諾セリ
- (5) 制限噸數ヲ二欄ニ分ツ佛案ノ主義ニ反對ス
- (6) 基準排水量ノ計測法ハ華府條約ト同一ナルモノニシテ各國異論ナク受諾セリ
- (7) 佛案ノ規定ノ艦齡ヲ經過セル艦艇ノ噸數減價ノ主義ニ反對ス
- (8) 代換ニ關スル英案ノ内容不明ナルモ佛案ニテ差支ナシ
- (9) 華府條約第十三條乃至第十八條ノ適用ニ異議ナシ但シ必要ノ字句修正ヲ要ス

(三) 艦船搭載ノ航空機

艦船搭載ノ航空機ハ艦船其ノ物ノ制限ニ依リ自然的ニ制限セララルモノナルカ故ニ一般空軍制限ヨリ除外スヘキモノナリトノ見解ナリシモ列國ノ態度ニ鑑ミ終ニ一般空軍中ニ含メテ制限スルコトニ同意セリ

(四) 艦船以外ノ海軍兵器器材等

佛伊其ノ他小海軍國多數ハ反對ナリ

各國トモ異議ナク第一讀會ヲ通過セリ

英米モ除外ヲ主張セルモ小海軍國多數ノ除外反對アリ終ニ制限ニ同意セリ

- (1) 佛國ノ豫算制限案ニ反對ス
本案ハ委員會ノ容ルル所トナラスシテ提案者ハ第二讀會ニ於テ再議スルコトトセリ
- (2) 蘭國ノ情報交換案ニ反對ス
是又委員會ノ容ルル所トナラス提案者ハ第二讀會ニ於テ再議スルコトトセリ

第四節 原案ノ修正

佛案中人員及艦艇制限方式ハ左ノ如ク修正セラレタリ

- (一) 人員ノ制限ハ左ノ二表ニ區分スルコトトシ本國、殖民地ノ區別及士官、下士官、兵ノ區別ヲナササルコトトナレリ

(イ) 海軍人員

(ロ) 軍隊の組織團體人員

- (二) 艦艇制限様式ニ第三欄ヲ加ヘ左ノ如クナシ更ニ各之ヲ本國、殖民地ニ區分ス

第一欄 各國カ國防上必要ト認ムル全噸數

第二欄 條約有效期間完了前迄ニ各國ノ保有セムトスル全噸數

第三欄 第二欄ニ掲クル全噸數ヲ艦艇ノ性質ニ鑑ミ

主力艦

航空母艦

一萬噸以下ノ水上艦

潛水艦

ノ四種ニ區分シ噸數ヲ按配ス

各國ハ國防上ノ必要ニ應ジ第三欄ノ噸數配分ノ變更ヲナスノ自由ヲ有ス但シ之カ變更ヲ爲サムトスルトキハ一年以前ニ其ノ旨各締約國ニ通知スルヲ要ス

帝國ハ右佛國修正案ヲ研究シ交譲ノ精神ニ富メルヲ多シ之ヲ以テ議論ノ基礎トセムコトヲ欲シタリシモ英國ノ頑強ナル反對アリタルヲ以テ妥協資料ニ供セムトスルノ意味ニ於テ左ノ修正意見ヲ提出セリ

(一) 海軍ノ移動性ニ鑑ミ本國海軍殖民地海軍ノ區分ヲ廢スルコト

(二) 第一欄ヲ廢シ第二欄ヲ「條約有効期間超過セサルコトヲ約スル各國艦艇全噸數」ト改ムルコト

(三) 左記ヲ加フルコト

本條ノ規定ハ現存條約又ハ將來締結スヘキ條約ニ於テ一部締約國間ニ右表ニ掲クル艦種別噸數ヲ變更セサルコトヲ約スルヲ妨クルコトナシ

佛修正案ハ一方英ノ反對ニ遇フト共ニ伊國モ同様ニ逆ノ意味ニテ反對セリ即チ英ハ佛案ニ何等讓歩ノ跡ヲ認メスト云フニ對シ伊ハ佛修正案カ餘リニ艦種別主義ニ走リタルヲ非難スルナリ而シテ伊ハ別ニ自己ノ提案ヲナセリ又今日迄日英米ト行動ヲ一ニセル智利「アルゼンチン」ハ佛案ニ全然同意セリ

佛ハ其後ニ至リ自發的ニ本國、殖民地ノ區分ヲ撤回セリ

本件ハ右ノ如ク英佛伊ノ三案ヲ見タルワケニテ何等討議ニ入ルコトナク第一讀會ヲ終了セルモノナリ

第五節 帝國ノ讓歩

(一) 海軍人員制限

海軍人員制限ハ艦艇制限ニ依リ自動的ニ行ハルヘキモノニシテ主義トシテ同意スヘカラス帝國政府亦此ノ見解ヲ維持ス然ルニ本委員會討議中某某委員ハ海軍人員ヲ制限セサルニ於テハ國ニ依リテハ陸軍人員制限ニ拔穴ヲ生スルコトアリト

ノ意見ヲ述ヘタリ帝國政府ハ之ヲ重要視シ左ノ條件ノ下ニ海軍人員ノ制限ヲ受諾スルコトトセリ

- (1) 海軍人員ノ制限ハ士官下士官兵ヲ區別セサル全數ニ依リ行ハルヘキコト
- (2) 海軍人員數ト艦艇トノ間ニハ制限上何等一定ノ比例ヲ保持シメサルヘキコト
- (3) 海軍人員ノ制限ハ行政教育機關ニ必要ナル職員ノ充實及條約ニ依リ保有スヘキ各國艦艇ノ乗員補充ニ何等支障ヲ來スヘキモノニ非サルコト

(二) 艦船搭載航空機制限

艦船搭載航空機ノ制限ハ之ヲ搭載スル艦船ノ制限ニ依ルヘク從テ一般空軍制限ヨリ除外スヘキモノト思考ス然ルニ某々國委員ハ空軍制限上艦船搭載航空機除外ヲ不利トスルノ意見ヲ述ヘタリ帝國政府ハ妥協交譲ノ精神ヨリ艦船搭載航空機ヲ空軍制限中ニ加フルコトヲ承諾ス但シ此件ハ將來ノ海軍軍備制限問題討論ニ何等拘束ヲ與フルモノニ非サルコトヲ條件トス

第六節 最終決定事項 (項目ノ上ニ何々案ト記載スルモノ)

(一) 海軍人員

(1) 左記ニ表ニ依リ之ヲ制限ス

第八表 海軍人員最大數

第九表 軍隊の組織團體所屬人員最大數

(註) 英米二國ハ人員制限カ他國ニ依リ一般ニ受諾セラレ且ツ艦艇制限力満足シ得ヘキ協定ニ達スヘキコトヲ條件トシテ之ヲ承諾ス

(註) 英國ハ第九表ヲ不要ト認ム

(2) 士官下士官ノ數カ必要以上ニ上ランコトヲ避クル爲陸軍ノ關スル限り之ヲ制限スル別表ヲ設ク(海空軍ニ關スル限リ討議ニ上ラサリシコトヲ註記ス)

(註) 佛國ハ陸軍ト同様ノ規定ヲ海空軍ニ及ホスヘキモノナリト聲明ス
(註) 英米日三國ハ之ヲ海空軍ニ及ホスコトナ承諾セス

(3) 軍隊ニ於ケル平均人員及軍隊の組織團體ニ於ケル實員數ノ計算ニ關スル規定ヲ設ク (海空軍ニ關スル限リ討議セラレサリシコトヲ註記ス)

(4) 服役年限ノ制限及服役年限計算ニ關スル規定ヲ設ク (海空軍ニ關シテハ討議セラレサリシコトヲ註記ス)
(註) 佛國ハ本規定ヲ海空軍ニ適用スヘキモノナリト聲明ス

(二) 海軍材料

(1) 左ノ三案ヲ併記ス

(英案) 締約國ハ附表……ニ規定スル艦種ニ從ヒ艦種毎ニ隻數及合計噸數ヲ同表規定ノ數字ニ制限スルコトヲ約ス
(佛案) 締約國ノ受諾シタル海軍軍備制限ハ第十表ニ示スカ如シ

同表第一欄ノ數字ハ各國カ其安全ト國家の利益トヲ保護スルニ缺クヘカラスト認ムル艦艇ノ全噸數ヲ表示ス
同表第二欄ノ數字ハ各國カ本條約有效期間滿了前迄ニ實現スルヲ必要ト認ムル艦艇ノ全噸數ヲ表示ス
同表第三欄ノ數字ハ第二欄ニ表示セル全噸數ノ配分(内譯)ヲ示ス此配分ハ艦艇ノ性質ニ鑑ミ主力艦航空母艦一萬噸以下ノ水上艦艇潛水艦ニ區別シテ之ヲ行フ
各締約國ハ第二欄ノ全噸數ヲ超過セサル範圍内ニ於テ其國ノ安全上缺クヘカラスト思惟スル場合ニ方リ第三欄ノ配分ヲ變更スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ實施ノ一年前迄ニ此ノ旨國際聯盟事務本部ニ通知スルヲ要ス

附記、各締約國カ第三欄ノ記入ヲ爲スニ方リ其國ノ安全上必要ト認ムル所ニ從ヒ四種艦艇ノ全部又ハ一部ニ自己ノ全噸數ヲ配分スルモノトス

第十表 (佛案附表)

I	11	111
國家ノ安全ト利益トヲ保護スルニ缺クヘカラスト全噸數	本條約期限滿了前迄ニ實現スルヲ必要ト認ムル全噸數	第二欄ニ表示セル全噸數ノ内譯區分
		全噸數
		主力艦
		航空母艦
		一萬噸以下水上艦艇
		潛水艦
		A B C D

(伊案) 締約國ハ超過セサルヘキコトヲ約シタル全噸數ノ範圍内ニ於テ其全噸數ヲ國家の利益ニ添フ如ク按配スルコトヲ得但シ艦艇建造着手前少クトモ六月以前ニ華府條約第十六條ニ示スカ如キ方法ニ依リ建造セムトスル艦艇ノ要目ヲ國際聯盟事務本部ニ通知スルヲ要ス

(2) 左ノ二案ヲ併記ス

(英案) 締約國ハ附表……ニ示ス所ニ從ヒ各艦種毎ニ單艦最大噸數及之ニ搭載シ得ヘキ備砲ノ最大口徑ヲ制限スルコトヲ受諾ス
(佛伊案) 締約國ハ附表……ニ示ス所ニ從ヒ艦艇ノ單艦最大噸數及備砲最大口徑ヲ制限スルコトヲ受諾ス

(3) (英案) 締約國ハ何レノ艦種ノ艦艇タルト問ハス之ニ搭載スル魚雷發射官ノ最大口徑ヲ附表……ノ示ス如ク制限ス

ルコトヲ受諾ス

(4)(佛案) 全噸數計算ニ方リテハ附表……規定ノ艦齡年限ヲ超過セル艦艇ニ就テハ其實際噸數……%ヲ有スルニ過キサルモノトシテ之ヲ計算ス

(5) 基準排水量ノ定義(華府條約規程第一項ト同一ナリ) 第二項トシテ左記ヲ加フ噸數ノ計測ハ「メートル」式噸ヲ用フ
(6) 締約國ハ艦艇亡失ノ場合ヲ除キ附表……ニ記載スル艦齡ニ達スルニ非サレハ如何ナル艦艇ト雖之ヲ代換セサルヘキコトヲ約ス艦齡ハ竣成ノ日ヨリ之ヲ起算ス

(7) 代換セラレタル艦艇ハ經濟上ノ理由ニ依リ本條約ニ於テ他ノ艦種ノ船舶ニ改造スルコトヲ指定セラレタルモノヲ除クノ外再ヒ軍艦トシテ使用スルコトヲ得ス

(8) 商船武裝準備ノ制限(華府條約第四條)

(9) 非締約國ノ爲ニ建造スル軍艦ノ制限(華府條約第十五條)

(10) 外國ヨリ註文ノ軍艦ヲ戰時徵發セサル件(華府條約第十七條)

(11) 外國ニ軍艦ヲ讓渡セサルノ件(華府條約第十八條)

(三) 其他海軍關聯事項

(1) 空軍制限(人員器材)ハ海軍(艦船ヲ含ム)ニモ及フ

(2) (佛案) 一般軍事豫算制限

(3) (白耳義其他ノ案) 化學戰禁止

(4) 情報 交換

(イ) 人員ニ關スルモノ

(ロ) (蘭案) 器材ニ關スルモノ

(ハ) 非締約國ノ爲ニ建造スル軍艦ノ要目其他ニ關スルモノ

(ニ) 武裝準備ヲ施シタル商船ニ關スルモノ

(ホ) 軍事豫算ニ關スルモノ

第四章 空軍々備ノ制限

第一節 人員ノ制限

第一小委員會ニ於テ空軍問題ヲ討議シタル際ニハ人員制限ニ對スル反對意見ハ極メテ有力ナリシモ今回ノ會議ニ於テ三軍關連問題ノ關係上佛國ヨリ之カ制限ヲ提案スルニ至リ反對者ハ英國ノミトナレリ而シテ英國委員ノ理由トスル所ハ空軍ハ目下發達過渡ノ時代ニアルヲ以テ各國著シク其ノ編成ヲ異ニシ或ハ獨立シアルモノアリ或ハ一兵科ヲ構成スルモ陸海軍ノ編成内ニアルモノアリテ其ノ細部ニ至リテハ更ニ著シキ差異アルヲ以テ空軍人員ノ範圍ヲ明確ニ定ムルコト困難ナリト云フニ在リテ之ニ對シ人員制限論者殊ニ佛國委員ハ空軍カ變遷ノ途ニアリテ各國一樣ノ編成ヲ有セサルノ事實ハ陸海軍人員ト共ニ空軍人員ノ制限ヲ必要トスル所以ニシテ又空軍人員ノ範圍確定上ノ細部ノ困難ハ他ノ軍備ニ於テモ遭遇スルモノナリトシ要スルニ一軍備ノ人員ヲ制限シテ他軍備ノ人員ヲ制限セサルハ其效果ヲ著シク減少シ殊ニ陸軍軍備討議ノ際重大問題トナリタル豫後備兵ニ重大ノ影響ヲ與フト云フニ在リ帝國委員亦空軍ハ人員ヲ以テ制限スルヲ最モ公平安定ノ結果ヲ得セシムルモノナリトシテ之ヲ支持セリ

英國委員ハ其後政府ノ訓令ヲ得テ空軍人員ノ制限ニ同意スル旨聲明セリ但シ空軍ノ編成カ各國ニヨリ甚タシキ相異アルノ事實例ヘハ諸國ニ於テハ下士ノ單獨操縱ヲ許スモ英國ニ於テハ少クモ將校ノ同乘監督アル場合ノ外一切下士ノ單獨操縱ヲ許サザルヲ以テ將校ノ比率ハ從テ他國ニ比シ大ナルヘキモ此事ハ軍事上何等ノ意味アルニアラサルノ事實ヲ舉ケ各國空軍人員ノ内容ヲ公正ナル基礎ノ下ニ比較スルコト能ハサル現狀ニ鑑ミ階級的區別制限ニハ同意スル能ハストシ日米伊亦概ネ

同一ノ理由ヲ以テ階級的區別制限ニ反對セリ

佛國委員ハ空軍人員モ陸軍ト同様階級的ニ區別シテ制限スルコトノ必要ナルヲ認ムルモノナルモ妥協ノ精神ニヨリ第一讀會ニ於テハ特ニ之ヲ固執セサルヘク第二讀會ニ至リ陸海空軍全體ニ關スル決議如何ニヨリ更ニ本問題ヲ提起スル權利ヲ保留スル旨ヲ以テシ尙空軍人員ノ總括的制限ハ其ノ通報ヲ階級別ニ行フヲ以テ條件トセリ從テ此點ニ關シ委員會ノ意見ハ大體一致ヲ見タリ

空軍人員ヲ領土のニ區別シテ制限セントスル佛案ニ對シテハ空軍ノ活動範圍大ナルノ理由ヲ擧ケテ日英米伊之ニ反對シ空軍人員ノ總括的制限ヲ補フニ階級別ノ情報提供ヲ以テスルト同様領土の空軍ノ配置ニ關シテモ同様ノ情報ヲ提供スルニ於テハ佛案ノ主旨ヲ満足セシムルヲ得ヘシト論シ佛國委員ハ空軍ノ移動性ハ陸軍ト大同小異ニシテ之ヲ海軍ト同一視スヘカラサルノ意見ヲ有スルモ空軍人員カ數のニ大ナラサルニ鑑ミ第一讀會ニ於テ合同の制限ニ同意スルモ差支ヘナシトナセリ其他人員ニ關シ米獨委員ハ豫後備兵ノ制限ヲ主張シ波蘭委員ハ操縱者ノ區別制限ヲ主張シタルモ何レモ之ヲ第二讀會ニ廻ハスコトナレリ

第二節 器材ノ制限

第一、制限範圍ニ就テ

器材ノ制限範圍ニ關シ英國案ハ本國空軍第一線部隊ニ勤務中ニアル航空機ニ限ラントシ佛國案ハ航空隊ノ定數並ニ航空隊ノ直接使用ニ充當セラレアル豫備機ヲ以テセンコトヲ提議セリ之ニ對シ米獨委員ハ制限ノ範圍ヲ貯藏器材ニ及ホササルヘカラサルコトヲ主張シ支給器材ノミヲ制限シテ動員ニ當リ直チニ使用シ得ヘキ貯藏器材ヲ放置スルカ如キハ制限ヲ殆ント無意味ナラシムルモノナルヲ以テセリ英國代表ハ之ニ對シ制限ノ目的ヲ完全ニ達成スル爲メ之ヲ軍備ノ一切ニ及ホサントスルコトハ大ニ希望スル所ナリト雖軍備制限事業ニ第一歩ヲ踏ミ出シタルニ過キサル現下ノ狀態ニ於テ實行ニ大ナル困難ヲ伴フ要素ノ制限ハ之ヲ斷念スルヲ適當ト認ム從テ貯藏器材ニ迄制限ヲ及ホサントスルコトハ有力ナル理由

アルモ之カ爲メニハ嚴密ナル國際監督ヲ組織スルノ必要ヲ生シ然カモ此監督ハ現下少クモ歐洲諸國ニ於テハ實行不可能ナリ又軍旗ノ下ニアリテ直チニ使用シ得ル航空機ヲ制限スルコトハ既ニ重要ナル制限目的ヲ達成スルモノナルヲ以テ現時ノ狀態ニ於テハ此制限ニ甘スルヲ適當ト信スルモノニシテ制限ノ範圍ヲ尙擴大セントスル案ニハ同意スル能ハスト米國委員ハ其主張カ多數國委員ノ反對ニ遭ヒタルニ鑑ミ第一讀會ニ於テハ之ヲ固執スルコトナカルヘク唯委員會ノ參考ニ供スルニ止ムトテ其主張ヲ撤回セリ

英國委員亦其制限範圍ヲ第一線部隊ノ所屬機ノミニ止メ學校其他補充部隊等ニ屬スル航空機ヲ制限外ニ置カントスル提案ヲ固執スルコトナク概ネ佛案ニ同意セリ

佛案ハ前述ノ如ク各隊ノ定數機及其自由使用ニ屬スル豫備機ヲ含ムモノナリシカ豫備機ノ行政區分ハ各國ニヨリ著シキ差異アルヲ以テ之ヲ包括セシムルトキハ制限ノ範圍ヲ不明瞭ナラシムトノ英國ノ反對ニヨリ結局之ヲ制限範圍ニ入レサルコトナリ航空隊ノ定數ノミヲ以テ制限スルコトニ一致セリ

第二、制限ヲ適用スヘキ要素

器材ノ制限要素ニ就テハ佛國ハ總馬力ニ依ラントシ英國ハ機數ヲ以テセンコトヲ主張シ兩者ノ間ニ第一小委員會ニ於テ見タルト同様ノ理由ヲ擧ケテ議論ヲ戰ハシタルカ瑞典代表ハ兩案ノ長短ヲ相補フ爲メ之ヲ配合シテハ如何トノ提議ヲナシ委員會ノ大部ハ直チニ之ニ賛成セリ

然レトモ國防上馬力小ナルモ多クノ機數ヲ必要ト認メアル歐洲ノ小國ハ兩者ノ綜合制限ハ必要ノ機數ヲ有スルヲ妨クルモノナリトシテ之ニ反對シタルモ結局總馬力數ト總機數トノ間ハ何等ノ比率ヲ保タシムルコトナク各々之ヲ獨立のニ決定スルコトヲ條件トスルニ至リタルヲ以テ歐洲諸小國モ之ニ同意シ英國委員ハ總馬力制限ニ關シ帝國委員ハ機數制限ニ關シ政府ノ訓令ヲ有セサルニヨリ意見ノ自由ヲ保留シテ何レモ一應之ニ賛成セリ然ルニ其ノ後日英共ニ何レモ政府ノ訓令ヲ受領シ之ニ基キ其保留ヲ解ケリ

第三、艦隊所屬ノ航空問題

佛國案ハ荷モ空軍ニ屬スル器材ハ之ヲ全部包括制限セントシ英國案ハ陸上根據地ニ配屬セラルル航空ニ限ラントセリ即チ英國案ハ帝國ノ主張即チ艦隊所屬ノ航空ヲ一般空軍ノ制限ヨリ除外セントスルモノニシテ其ノ主義ニ於テ我主張ト一致セリ

帝國委員ハ第一小委員會ニ於テ主張シタル如ク艦隊所屬航空ヲ一般空軍ヨリ除外スヘキ意見ハ依然之ヲ維持スルモノナリト述ヘ左ノ要旨ノ提案ヲナセリ

「帝國委員ハ艦隊所屬ノ航空ハ海軍軍備ノ制限ニ於テ議題トスヘキモノナルニ鑑ミ之ヲ一般空軍ヨリ除外スルヲ必要トスル意見ナリ」

英國委員ハ帝國ノ提案ヲ支持シ艦隊所屬ノ航空ハ航空母艦ノ制限ニヨリ自然ニ制限セラルルヲ以テ若シ之ヲ一般空軍ニ包含セシメテ制限スル時ハ此航空ノミハ重複制限ヲ受クルコトナルヘク重複制限必スシモ效果ヲ増スモノニアラサルヲ以テ海軍ノ部ニ於テ行フ制限ノミヲ以テ充分ナリト述ヘ米國委員亦帝國案ニ賛成セリ

佛國委員ハ之ニ對シ艦船ノ有スル航空機ト航空機ヲ有スル艦船トハ全然別箇ノモノニシテ艦船ヲ制限スレハトラ航空機數ノ制限トハナラス又航空機ヨリスル攻撃ヲ受クルモノハ其航空機力陸上ニ根據ヲ有スルト艦船ニ根據ヲ有スルトハ間フ所ニアラストシ和蘭委員ハ艦隊所屬ノ航空ハ航空母艦ノ如キ贅澤ナル武器ヲ有セサル國ニ執リテハ重大ノ關係ヲ有スルモノナリトシ尙ホ艦船ノ制限ニヨリ航空ヲ制限セントスルコトハ海軍ノ制限ヲ艦種別ヲ以テスルヲ前提トスルモノニシテ若シ總噸數ヲ以テ制限スル場合艦隊航空ハ何等ノ制限ヲモ受ケサルコトナルヘシテ之ニ反對シタリ帝國委員ハ本提案カ委員會多數ノ反對ニ遭ヒ到底可決ノ見込ナシト認メタルニヨリ「帝國カ艦隊所屬ノ航空ヲ一般空軍ヨリ除外セントスルハ毫モ之ヲ制限ヨリ免レシメントスルノ意ニアラスシテ要ハ其制限ヲ艦船ノ制限ニヨリ行ハントスルモノナルヲ以テ制限方式ニ關スル意見ノ差アルニ過キス然レトモ其提案ハ多數委員ノ反對ニ遭ヒタルニ鑑ミ將來適當ノ時機ニ於テ之ヲ提議スルノ權ヲ保留シテ一先ツ撤回スル旨」ヲ聲明シ米國委員モ同様ノ聲明ヲナシ英國委員亦反對者ノ議論ハ傾聽

ニ値スルモノアルニ鑑ミ政府ニ訓令ヲ仰キ其レ迄何分ノ態度ヲ保留ストテ妥協的態度ニ出テタリ其後英國委員ハ來ルヘキ三國海軍會議ヲ拘束セサルヘキヲ條件トシテ艦隊所屬航空ヲ一般空軍ト共ニ制限スルコトヲ承諾スル旨聲明シ帝國委員亦政府ノ訓令ニ基キ同意味ノ聲明ヲ爲セリ

第三節 空軍制限ト民間航空

第一 佛國案ハ其第十一條ニ於テ空軍ノ制限ト民間航空ノ關係ニ就キ左ノ要旨ノ條文ヲ設ク

空軍兵力ニ關シ各國ノ承認シタル數量ハ他國ニ於ケル民間航空ノ發達ヲ考慮ニ容レタルモノナリ

條約有效期間締約國ノ民間航空又ハ非締約國ノ軍用又ハ民間航空ノ發達カ一國ノ安全ヲ脅威スルノ恐れアリト認メタル場合其國ハ之ヲ軍備制限委員會ニ通告ス云々

委員會先ツ第一項ノ討議ニ入り米獨委員ハ空軍ノ制限ヲ民間航空ニ連繫ヲ置カントスルコトハ其程度ノ如何ニ拘ラス適當ナラストテ之ニ反對シ英國委員ハ佛案第一項ノ主旨ニシテ本會議ニ於テ空軍兵力要求ノ辨明資料ヲシメントスルモノナルニ於テハ各國ハ其ヲ認メテ必要トスル如何ナル理由ヲモ提供シ得ルヲ以テ態々之ヲ條約文ニ特記スル必要アリヤヲ疑フ旨ヲ述ヘ白國委員ハ佛國提案ノ第一項ト第二項トヲ分離スルトキハ第一項ノ意味頗ル漠然タルモノトナルヲ以テ『軍備制限委員會』構成ニ關スル佛案ヲ研究シタル後ニ全文ヲ研究シテハ如何トノ提議ヲ爲シ英國委員之ヲ支持シ日佛委員ハ軍用民用航空ノ軍事の緊密ノ關係ヲ説キテ佛國提案ハ空軍制限上重大ナル價值ヲ有スルモノナルヲ以テシ直チニ此問題ノ解決ヲ希望スルモノナルモ委員會ニシテ後刻ノ討議ヲ便利ト認ムルニ於テハ強テ之ニ反對セサルヘシトテ本問題ハ全部後廻ハシトナリタリ

然ルニ本問題ハ委員會カ後廻ハシトナセル他ノ空軍諸問題ヲ討議シタル際ニ再ヒ議題トナリタルカ日佛等ノ熱心ナル主張ニヨリ委員會ハ第一項ノ原則ヲ可決シ（米獨「アルセンチン」之ヲ保留ス）第二項ハ監督問題ト共ニ討議ニ至ラスシテ第二讀會ニ讓ルコトナレリ

第二、民用軍用ノ關係ヲ律スル白國提案

民用航空ノ軍事的價值極メテ大ナルハ何人モ認ムル所ナルモ之ヲ軍用ト共ニ制限センコトハ不可能ナリ而シテ現時民用機ト軍用機トカ殆ント技術的ニ同一ノ特性ヲ備ヘアルハ民用航空カ軍用航空ヨリ生レ且ツ軍用航空ノ後見下ニ發達シツアルニヨル然レトモ兩者ハ全然其目的ヲ異ニスルヲ以テ將來軍艦ト商船トノ如ク全ク特性ヲ異ニスル機體ヲ有スルニ至ルノ運命ヲ有スヘク民用航空ノ軍事的價值ヲ減少スルハ此自然ノ變遷ヲ待ツノ外ナキモ若シ軍用民用兩者ノ間ニ存スル有形無形ノ連鎖ヲ切斷シ民用航空ヲ専心其運命ニ向ヒ發達セシムル時ハ其軍事的價值ヲ減少スルノ時期促進ヲ庶幾スルヲ得ヘシ是レ「ブラッセル」ニ於ケル民間航空專門委員會ノ結論ノ主眼點ニシテ白國委員ノ提案ハ此結論ヲ基礎トシタルモノナリ

委員會ハ全員一致本提案ノ主旨ニ賛成シ若干ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ可決セリ帝國委員モ亦原案中我國ノ現制度ト相容レスト思惟シタル點ヲ修正シ之ニ賛成セリ

第三、民用航空ノ公表

羅馬尼委員ハ民間航空ノ現狀ヲ明カナラシムル爲メ各國ニ於ケル製造購入機ノ公表ニ關スル提案ヲ爲シ若干討議ノ後各國ハ其登錄シタル飛行機ニ關シ公表スルコトナリ獨逸ノ保留ヲ以テ可決セラレタリ

第四節 空軍軍備ニ關スル第一讀會ノ決議要旨

第一章 人 員

第A條 (陸軍ノ部ト同シ)

三、空 軍 軍 備

第十表 空軍ノ最大總人員數

第十一表 軍隊の組織ヲ有スル團體ノ最大人員數

(註一)

佛國委員會ハ本國ト海外領土トノ間ニ區別ヲ設ケサルヤ否ヤニ關スル決定的意見ヲ第二讀會迄保留ス

(註二)

英國委員ハ第十一表ハ必要ヲ認メストノ意見ナリ

第二章 器 材

第三節 空 軍 軍 備

第A條 各締約國ハ次表ニ從ヒ勤務中ニアル (in service) 空軍器材ヲ制限スルコトヲ約ス

A表、飛行機ハ總機數及總馬力、飛行船ハ總馬力總容積總船數ノ最大數

B表、軍隊の組織團體ノ有スル飛行機飛行船モ亦A表ト同一方式ニヨル

制限ハ陸海空軍隊の組織ヲ有スル團體ニ於テ日常勤務ニ使用セラレ戰爭ノ用ニ適スル飛行機及飛行船ニ適用セラルル

モノトス

註、獨逸ハ器材制限ノ範圍ニ就キ英佛ハ領地的區別制限ニ就キ羅馬尼ハ總馬力總機數ノ配合制限ニ就キ保留ス

第A D條 各締約國ハ他國ニ於ケル民間航空ノ發達ヲ考慮ニ置キテ前諸條ノ制限規定ヲ承認シタルモノナリ

註、獨、米、亞爾然丁ハ本條ヲ保留ス

第A E條

一、政府ノ民間航空指導機關ハ軍事機關ト分離スヘキコト

二、軍事的性質ヲ帶ハシムル目的ヲ以テ民間航空器材ノ製造ニ對シ干與ヲ行ハサルコト

三、民間企業ニ對シ特ニ軍事的目的ヲ以テ教育セラレタル人員ノミヲ使用スルコトヲ要求セサルコト

軍用航空ノ人員器材ハ一時的ナル場合ニ於テ之ヲ民間企業ノ使用ニ供セシムルヲ得

四、主トシテ軍事的目的ヲ以テ設置セラレタル航空線路ニ補助金ヲ與エサルコト

五、諸國民用企業間ニ成ルヘク經濟的協定ヲ成立セシムル如ク獎勵スルコト

註、伊國ハ之ヲ保留ス

第五章 一般ノ規定

第二節 情報交換

第I D條 本條ハ次ノ二案トナレリ

佛案、各締約國ハ本章第I A條（陸軍ノ部参照）ノ區分ニ從ヒ飛行機ハ總馬力總機數飛行船ハ總馬力總容積總船數ニ就キ毎年其年度中ニ達シタル最大數ヲ通告ス

伊案、各締約國ハ第一章第三節ノ第A A條ノ區分ニ從ヒ云々（以下佛案ト同シ）

第I E條 各締約國ハ其領土内ニ於テ登録セラレタル民間飛行機飛行船ノ數ヲ毎年通告ス

註、獨逸委員ハ通告ノ全部ヲ保留ス

第五章 豫算

第一節 經過概要

本問題ニ關スル英案ハ先ツ豫算制限ノ第一步トシテ之ヲ公表通報スルコトニ依リ各國軍備ノ大體ノ傾向ヲ明ニセンコトヲ主眼トスルモノニシテ佛案ハ器材ノ直接制限ハ監督問題ヲ伴ヒ極メテ困難ナルヲ以テ豫算ニ依リ間接ニ之ヲ制限センコトヲ骨子トシ豫算總額及主要項目毎ニ制限スルモノナリ而シテ右ハ表面ノ理由ナルモ實ハ佛國ノ欲セサル器材ノ直接制限論ニ對シ軍事監督ノ必要ト間接制限論ヲ以テ應酬スルト共ニ財政豐ナル英米ノ豫算ヲ制限スルヲ利益ト認メ且ツ一面ニ於テ軍事豫算ノ制限ニ好意ヲ有スル一般輿論ニ對シ有利ナル地步ヲ占メントスルニ在ルモノト推察セラル一般討論ニ於テ獨代表ハ第一第二小委員會ニ於ケル反對理由ヲ引用シテ其不利ヲ列舉シタル後佛案ニ對スル對案トモ見ラルヘキ陸軍器材ノ直接制限案（陸軍ノ部参照）ヲ提出シ直ニ之ヲ審議センコトヲ要求セリ然レ共委員會ハ豫算ノ討論中ニ器材ニ就テ審議スルヲ好マス遂ニ獨代表ハ後日適當ノ機會ニ更ニ提案スヘキコトヲ聲明シテ之ヲ撤回セリ

英案タル豫算ノ公表通報ニ關シテハ主義ニ於テ之ニ反對スルモノナカリシモ豫算專門委員會ノ作成セル豫算一覽様式ハ未タ決定的ノモノニ非サルノミナラス相當細部ニ互リ區分シアル處伊代表ハ未タ決定セサル様式ヲ豫メ承諾スルコト能ハサルコト及右試案ハ細密ニ過キ種々ノ不便ヲ伴フヲ以テ通報事項ヲ二三ノ主要ナルモノニ限定センコトヲ主張シ英國代表ハ二三事項ノミニテハ軍備全般ニ對スル一般傾向ヲ察知スルコト可能ナルヲ理由トシテ反對シ種々討議ノ結果豫算專門委員會ニ對シ出來得ル限リ簡單ナル様式ヲ作成スル様希望ヲ述フルコトトシテ折合ヒタリ

佛ノ制限案ニ對シテハ米獨代表ノ反對聲明アルノミナラス日英伊等ノ反對アリ到底通過ノ見込ナカリシヲ以テ佛代表モ單ニ佛案ヲ説明シ豫算ニ依リ間接ニ器材ヲ制限スルコトノ必要ヲ一通リ述ヘタルニ止メ佛案ハ委員會ノ容ルル所トナラスシテ終レリ

右ノ如キ經過ニ依リ全會一致ヲ以テ認メラレタルハ豫算通報案ノミニシテ其性質上通報ノ部ニ入ルコトトナリタリ而シテ佛案ハ佛代表ノ希望ニ依リ之ヲ二分シ總豫算ノ制限ハ豫算制限ノ部ニ又器材ノ購買製作及維持ニ要スル豫算ノ制限ハ器材制限ノ部ニ夫々佛案トシテ記入スルコトトナレリ

第二節 英佛案ノ對照

英 國 案 佛 國 案

(1) 各締約國ハ附錄様式ニ依リ各會計年度ニ於テ陸海空軍ニ充當スヘキ豫算及實際支出セル費額ヲ國際聯盟事務總長ニ通報スヘキモノトス

(2) 前項ノ通報ハ毎年遅クモ……ニナスヘキモノトス

(2) 前項ノ通報ハ豫算成立後三ヶ月又ハ會計年度ノ締切後……ヶ月以内ニナスヘキモノトス

(3) 各締約國軍事費ノ總額ハ本條約ニ於テ其ノ國ノ承認ヲ

得且ツ附表ニ示サレタル數字ヲ超過スヘカラス

(附表ハ本國軍本國ニ在ル軍隊の組織團隊、植民地軍及同補充部隊海外領土ニ在ル軍隊の組織團隊ニ區分ス)

(4) 各締約國ノ軍用器材ノ維持購買及製造費ハ各々陸海空軍ニ分チ附表ノ數字ヲ超過スヘカラス

(附表ハ更ニ第三項ノ如ク區分シアリ)

(5) 右數字ハ之ヲ條約期間ノ各年度ニ區分シ各締約國ノ軍用器材ノ維持購買及製造ニ要スル年度額ハ之ヲ超過セサルモノトス

但シ某年度ノ剩餘金ハ次年度ニ繰越スコトヲ得

第三節 主ナル意見摘要

(一) 獨逸代表

豫算ヲ以テスル軍備制限ニ關シテハ第一委員會ニ於テ日米和蘭瑞典及「アルゼンチン」委員ト共ニ獨逸委員ノ主張セル意見ニ同意シテ豫算ノ制限ヲ基礎トスル軍備制限ノ方式ハ實行困難ニシテ公正ナルモノニアラス從ツテ之ヲ承認スルコト能ハス

第二小委員會ノ意見ニ依レハ豫算ノ制限ハ單獨ノ軍備制限方式トシテ適當ナラス人員ハ器材ノ制限ニ伴フ補足の方法タルニ過キササルモノナリ故ニ豫算制限ノ討議ニ先チ陸軍器材ノ直接制限ノ能否ニ付審議スルノ要アリ右ノ理由ニ依リ陸軍器材ノ直接制限ニ關スル提案ヲナセルニ付豫算制限ノ討議ニ先チ審議サレンコトヲ望ム

(二) 米國代表

豫算制限ニ關スル米國政府ノ意見ハ昨年第一小委員會ニ於テ明ニ聲明セラレタル所ニシテ軍事費ニ依リ正確ニ軍備ヲ計測スルコト能ハス又軍備制限ノ公正ナル基礎トナスコト能ハス其ノ理由左ノ如シ

(イ) 人件費ハ徵兵制度志願兵制度ニ依リ又各國特種ノ事情ニ依リ著シキ差異アリ單簡且ツ公平ナル方法ニヨリ一律ニ算定スルコト不可能ナリ

(ロ) 給與製造維持費生活程度爲替ノ差異並豫算ノ編成ノ不統一ナルニ鑑ミルトキハ豫算ノ制限ヲ行ハントスル總テノ企圖ハ公正ナルモノニアラス

(ハ) 豫算ノ制限ハ軍備制限ノ間接法ナル處米國政府ハ直接法ニ依リ有效ニ軍備ヲ制限シ得ルモノト思惟ス從テ間接法ハ望マシカラス

以上ノ理由ニ依リ豫算ノ制限ヲ基礎トスル軍備ノ制限ハ實行不可能ニシテ又公正ナルモノニアラス從テ之ヲ承認スルコト能ハス

(三) 英國代表

豫算ノ制限ハ萬人ノ希望スル所ニシテ將來専門家ノ研究ニ依リ各國軍事豫算ノ比較可能トナリ更ニ制限セラルルニ至ルヘキモノト信スルモ目下ノ處比較不可能ニシテ制限ノ基礎トナシ難キハ明ナリ然レ共先ツ第一步トシテ專門委員會ノ研究ニ係ル豫算一覽様式ニ依リ各締約國カ其ノ軍事費ヲ明細ニ發表シ通報スルコト緊要ナリ蓋シ是ニ依リ各國ノ軍事費ヲ比較シ得ルモ某國ニ就キ各年度ノ豫算ヲ比較シ得ヘク某國ニ於ケル軍備ノ傾向及現ニ實施シツツアル事項ヲ明ニ知リ得ルモノニシテ此點ハ軍備制限ノ見地ヨリシテ等閑視シ得サルモノナリ

(四) 佛國代表

軍用器材カ軍備上極メテ重要ナル要素ニシテ軍備制限ニ當リ之ヲ無視スルコト能ハサル疑ノ餘地ナク何等カノ方法ニ依リ之ヲ制限スルノ必要アルヘシ而シテ直接之ヲ制限セントセハ其制限ヲ有效ナラシムル爲必然軍事監督ヲ必要トス若シ

列國ニシテ軍事監督ヲ認ムルニ於テハ直接軍用器材ヲ制限スルニ異議ナキモ然ラサル場合ニ於テハ豫算ニ依リ間接ニ之ヲ制限スルノ外ナク是レ佛案ヲ提議セル所以ナリ

(五) 伊國代表

軍事豫算ノ公表通報ニ關スル根本ノ主義ニ就テハ異議ナキモ一覽様式ノ決定セサル今日直ニ之ヲ承認スルコト能ハス殊ニ専門委員會ノ様式試案ハ千乃至千六百ノ數字記入ヲ要シ豫算ノ編成法ニ依リテハ右様式ニ從ヒ計上スルコト不可能ナル場合モアルヘク又假令可能ナリトスルモ其ノ煩ニ堪ヘサルモノアリ而シテ是等ノ數字ハ比較スヘキ性質ノモノニ非サルモ一般公衆ハ之ヲ比較ノ資料トナシ誤リタル觀察ヲナシ面白カラサル結果ヲ招來スル虞アリ一例ヲ舉クレハ軍備不充分ノ甲國ノ豫算力増加シ軍備充實セル乙國ノ豫算力減少スルヲ見テ甲國ハ乙國ニ軍國主義ナリト判斷スルハ誤ナリ右ノ理由ニ依リ公表通報事項ハ二三ノ極メテ重要ナルモノニ限定スルヲ適當トス

第四節 決定事項

(一) 豫算通報ニ關スル事項ハ通報ノ部ニ左ノ通り記入セラルルコトナレリ

(イ) D A 條

各締約國ハ標準様式ニ依リ現會計年度ニ於テ陸海空軍ニ充當スヘキ豫算ノ一覽表ヲ聯盟事務總長ニ通報スヘシ右通報ハ豫算成立後……月以内ニナサルヘキモノトス

備考

(1) 右條文ヲ提案スルニ就テハ準備委員會ハ豫算專門委員會ノ審議案ヲ了ナルコト及比較的簡單ナル一覽様式ヲ提出シ得ヘシトノ同委員會ノ意見ヲ認メタルモノナリ

準備委員會ハ目的ヲ達シ得ル範圍ニ於テ一覽様式ハ出來ル限リ簡單ナルヲ要ストノ意見ナリ

(2) 獨逸代表部ハ一覽様式ノ主義ヲ認ムルモ一覽様式ハ軍事費ノ公表ニ專用シ之カ比較及制限ヲ目的トシテ使用セラルヘキモノニ非サルコトヲ條件トス

(3) 伊國代表部ハ一覽様式ヲ承知スル迄本條ノ承認ヲ保留ス

(ロ) D B 條

各締約國ハ標準様式ニ依リ前年度ニ於テ陸海空軍ノ爲實際支出セル費額ノ一覽様式ヲ聯盟事務總長ニ通報スヘシ右通報ハ會計年度ノ終リヨリ……月以内ニナサルヘキモノトス

(二) 豫算ノ部ニ左記佛案ヲ記入スルコトナレリ

(佛案)

各締約國ニ於ケル歲計ノ總額ハ會計年度ニ依リ計上シ附表(本國軍本國ニアル軍隊の組織團隊殖民地軍同補充部隊及海外領土ニ在ル軍隊の組織團隊)ノ通り區分ス而シテ本條約ニ於テ其ノ國ノ承認ヲ得且ツ其ノ附表ニ示サレタル數字ヲ超過スヘカラス

備考

(1) 英國伊國日本代表部ハ豫算制限ハ事ヲ其ノ公表ニ依リ實施セラルヘキモノト思惟ス

(2) 米國及獨逸代表部ハ條約案中ニ豫算制限ニ關スル規定ヲ挿入スルコトニ對シ一般的保留ヲナス

(三) 陸軍器材ノ部ニ獨逸ノ器材制限案ト併行シテ左記佛案ヲ記入スルコトナレリ

(佛案)

各締約國ニ於ケル軍用器材ノ維持購買及製造費ハ陸海空軍ニ分チ條約期間ノ總額ヲ附表(二)項佛案ニ同シ)ノ通り制限ス

備考

(1) 右附表ハ豫算專門委員會報告ノ一覽様式ニ依リ從テ專門委員ノ決定ニ俟ツヘキモノトス

(2) 本條ノ總額ハ條約期間ノ各年度ニ區分シ各締約國ハ年度配當額ヲ超過スルヲ得ス但シ某年度ニ於ケル剩餘金ハ次年度ニ繰越スコトヲ得

第六章 條約實施ニ關スル條項

委員會ハ四月十三日ヨリ條約實施ニ關スル條項ヲ審查シタルカ先ツ其ノ一般討議ニ於テ議論紛糾米伊等ハ條約ノ實施監督ニ付テハ如何ナル形式ノモノタルヲ問ハス之ニ反對ナルノ意思ヲ表明シ佛ハ又條約實施ノ制度ハ軍縮條約ノ根幹ヲ爲スモノナレハ右條項ナクシテ條約ノ存立ナク佛國ハ此上條約締結ニ協力スルコトヲ得スト迄極言スルニ至リタルモ後述ノ如ク白國代表ノ妥協的提議ニ依リ比較的問題ナク且各國ニ共通ナル通報條約適用除外例等ノ問題ヲ先ツ審議シ後監督問題ニ移ル事トナリタリ今左ニ節ヲ分ツテ本件經過ヲ略述スヘシ

第一節 一般 討 議

先ツ米國代表ハ委員會ノ議事カ今ヤ最モ政治色彩濃厚ナル問題ニ入レルヲ指摘シタル後米國政府ハ既ニ屢々聲明セル通り國際聯盟ノ一員タラサルニ依リ苟モ米國ヲ聯盟ノ支配下ニ立タシムルカ如キ國際條約ニ參加シ得サルト共ニ監督乃至監視ノ主義ヲ採用スル條約ニ署名シ得スト斷シ次ニ軍事監督ノ制度カ徒ニ複雜ニシテ實際的ナラサルコト國際間ニ猜疑ヲ挑發スルモノナル事華府海軍條約カ何等監督ノ規定ヲ包含セスシテ良ク各締約國ニ依リ誠實ニ實行セラレ居ルノ事實ヲ指摘シ英佛代表カ米國ノ特殊地位ニ適合スルカ如キ規定ヲ置キ米國ノ好意ヲ示サレタルニ對シ感謝スルモ米國ハ軍縮條約ハ單ニ制限條項ノミヲ包含スヘク如何ナル形式ノ監督制度ニハ承服ス得ストシ唯若シ國際聯盟加入諸國カ相互ノ間ニ聯盟ノ機關ノ作用ヲ必要ト認ムルニ於テハ米國ニ敢テ之ヲ妨クルノ意圖アルモノニアラス依テ米國ヲ除外シタル此種機關ヲ設定セントスル計畫アラハ米國ハ之カ實現ニ欣然協力セントスルモノナリト結フ之ニ對シ佛國代表ハ米國代表ノ陳述ヲ遺憾トスルモ其ノ特種ノ地位ニ鑑ミ止ヲ得サル儀ト思考ス佛案ハ聯盟ト離レタル一ノ機關ヲ設立セント試ミタルモ米國政府ノ峻拒ニ逢ヒタル以上吾人ノ執ルヘキ方策ハ二アルノミ即一ハ此際米國ノ反對ノ一事ニ依リ監督ノ制度ヲ拋棄スルカ又ハ米國代表ノ意見ニ從ヒ聯盟國ノ間ニ規約ノ當然ノ結果タル監督制度ヲ樹ツルカニ在リ佛國ハ監督ノ規定ヲ有セサル國際條約ニハ絶對ニ參加シ能ハサルヲ以テ第二ノ方法ヲ選ハサルヘカラサルニ至レリ監督ノ制度ハ規約第八條ノ當然ノ結果ニシテ聯盟國カ條約ニ依リ議セラレタル義務ノ履行ヲ保障スル唯一ノ方法ナレハナリ今ヤ米國ノ反對ニ依リ軍縮條約締約國全部ニ適用

スヘキ制度ヲ求メ得サルニ付此際條約ヲ二ニ分チ聯盟國ノミニ適用スヘキ條項ヲ審查センコトヲ望ムト述フ

右佛國側ノ條約分離提案ニハ英。國。代。表。先ツ主義トシテ之ニ賛成シ又波。蘭。亞。爾。然。丁。瑞。典。等モ大體之ニ同意ヲ表シタルモ伊。代。表。ハ監督ノ制度ニハ如何ナル形式ノモノタリトモ之ニ贊成スルコトヲ得スト斷言シ且監督制度ノ不可ナル所以ハ既ニ一九二一年九月ニ於テ常設軍事諮問委員會ノ滿場一致之ヲ認メタル所ニシテ爾後此決議ヲ變改スヘキ事情發生シタルトハ云ヒ難ク又之ヲ政治的ニ見ル時ハ規約第八條ノ實行ハ締約國ノ相互信頼及善意ヲ前提トスルヲ要シ監督ノ制度ハ各國ノ間ニ徒ニ猜疑心ヲ挑發スルノミニシテ有害無益ナリトテ之ニ反對シ又他方委員會ノ大部分ハ軍縮條約ノ内容中未タ決定セラレサル事項多キ今日ニ於テ之カ實行ノ監督ヲ論スルハ時期尙早ナリトテ意見ヲ留保スルニ傾キ尙和。蘭。代。表。ハ佛國代表ノ提案セル條約分離ノ主義ニ付テハ訓令ヲ有セサルヲ以テ直チニ贊否ヲ聲明シ難シト論ス我。佐。藤。代。表。ハ條約ノ實行ニ善意ヲ要スル所以ハ帝國全權ノ從來常ニ主張シ來リタル所ニシテ今尙之ヲ確信シテ止マサルモ日本政府ハ互讓ノ精神ヲ以テ一ノ國際機關ノ設立及之カ情報ノ立據及公表ヲ爲スノ組織ヲ立ツル事ニハ敢テ反對セス即日本政府ハ佛國提案ノ主義ニハ直ニ同意シ能ハサルモ監督ノ問題タル要スルニ歐洲ニ關スルモノナルヲ以テ此際ハ篇ト委員會ノ討議ノ經過ヲ聽取シ逐一本國政府ニ報告シ第二讀會ニ於テ政府ノ意見ヲ表明スル考ナリト述ヘタリ

茲ニ於テ佛國代表ハ斷乎トシテ條約ノ根本トモ云フヘキ監督制度ニ付各種ノ反對留保ヲ爲スモノアル以上自己ノ提案ヲ維持スル必要アリヤヲ疑ハルヲ以テ此際根本的ノ數ケノ點ニ付委員會ノ意見ヲ纏ムル必要ニ迫ラル即チ

(一) 規約第八條ニ豫見スル軍事情報ノ交換及公表ヲ承認スルヤ否ヤ

(二) 右主義ヲ認ムルトシ此等情報ヲ統一スル爲一ノ特別機關ノ設置ヲ承認スルヤ否ヤ

(三) 此等ノ機關カ單ナル情報ノ接受ニ止マラス進テ情報ノ追加ヲ求メ又之ニ對シ説明ヲ求ムルコトヲ承認スルヤ否

(四) 規約第八條ニ依リ條約所定ノ兵力ノ増加變更ヲ理事會ニ求ムル場合合理理事會カ之ヲ審查セスシテ拒絕シ得ルノ原則ヲ

此等ノ四點ニ付委員會ニ意見肯定のナレハ條約ノ實施ニ關スル條項ヲ起草シ得ヘク若シ何レカノ點ニ付委員會ノ意見一致ヲ缺カハ遺憾ヲ佛國政府ハ此以上委員會ノ事業ニ協力スルコトヲ得スト斷言ス之ニ對シ英代表ハ本件ノ如ク重大機微ナル問題ニ付テ各人徒ニ自說ヲ固執シ讓歩ヲ肯セサレハ之カ解決期圖スヘカラス委員會ノ事業ハ從來嘗テ手ヲ染メザリシモノニシテ各人ノ間ニ意見ノ不和アリトテ直ニ之カ討議ヲ中止セントスルハ決シテ策ノ得タルモノニアラス此意味ニ於テ佛國代表ノ態度ニ贊成セス佛國側ノ推問セル四點ニ付テハ之ヲ承認スルニ躊躇セサルモ此等漠然タル原則ニ付討議スルヨリモ問題ノ各點ニ付直ニ研究ヲ開始スルヲ得策トシ意見ノ相違ハ主義ニ在ラスシテ寧ロ細目ニ存スルヲ信スト應酬ス伊代表ハ既ニ委員會中本件ニ關シ著シキ意見ノ相違アル以上問題ノ實相ヲ明カナラシムルヲ要シ徒ニ辭句ノ綾ヲ以テ見解ノ不和ヲ掩ハントスルハ絕對ニ不可ナリ須ク委員會ノ意見ヲ卒直ニ披露シ輿論ノ前ニ立ツヘク又之ニ依リ生スル責任ハ伊代表ノ回避スル所ニ在ラス既ニ原則ノ問題ニ付意見ノ一致ヲ缺ク以上條項ノ審議ヲ爲スハ無用ノ業ナレハ此際本件ニ關スル見解ニ著シキ相違アル事ヲ明ニスルヲ以テ満足スヘシト主張ス

以上ノ如ク委員會ハ英佛伊代表ノ間ニ烈シキ論争アリ一般討論ニ於テ既ニ停頓ノ姿トナリタルモ十四日ニ至リ白國代表ヨリ一ノ議事進行ノ方法ニ付動議ヲ提出兎ニ角比較の問題ナキ條約適用除外例情報ノ提供條約ノ批准等ノ條項ヲ審議スル事トナリタリ白國代表ハ先ツ委員會開會以來ノ各人ノ努力ヲ多トシ委員會ハ各種ノ問題ニ付苦キ失敗ヲ嘗メタルモ最後迄努力ヲ繼續スヘク監督問題ニ付各人ノ意見岐レ收拾困難ニ陷レルモハ要スルニ既ニ豫想シタル所ニシテ會議決裂セリトハ見ルヲ欲セスト述ヘタル後條約實施條項ノ細目ニ付詳密ナル解説ヲ加ヘ先ツ米國ノ特殊ナル國際的地位及米國ノ政治方式カ歐大陸諸國ノ夫レト相同シカラサルハ一ノ嚴存セル事實ニシテ之ヲ尊重セサルヲ得ス勿論歐洲諸國ハ其ノ情勢上米國トハ異レル方法ヲ以テ相互ノ政治的協力ヲ樹立セサルヘカラサル地位ニ在ルモ之カ爲米國ト他ノ諸國トノ間ニ本事業ニ關シ協力ノ余地ナキニ至レリトハ斷シ難シトシ次ニ條約適用除外例ニ關スル條項ニ付テモ米國ノ參加シ得サル理由ヲ發見シ得

ナル所ニシテ情報交換ニ關シテハ米國ノ同意ヲ得ヘキコト既ニ同國代表ノ屢述セル所ナリ又批准ノ條項ハ條約當然ノ附則ニシテ何人モ異議アルヲ豫想シ得スト論シ唯以上米國ノ協力ヲ得ル見込アル問題ノ外所謂軍事監督ノ問題アリ頗ル複雑ナル性質ヲ帶フルモ之ヲ以テ聯盟國ノミ關係アル問題ト爲スヘカラス本件ニ付テハ各國ノ立場自ラ異ル所ニシテ一ハ既存ノ條約ニ依リ同様ノ義務ヲ負ヒ他ハ全然自由ノ立場ニ於テ之ヲ討論シ得ヘシ即聯盟國ハ規約第八條及「ヴェルサイユ」條約第五編ニ依リ明白ナル義務ヲ負ヘルニ反シ非聯盟國ハ何等ノ拘束ヲ負ハスコレ問題ノ解決ヲ紛難困難ナラシムル所以ナリ或ハ此部分ヲ一般の條約ト引離シ第二ノ條約ト爲サントスルノ意見モアレトモ聯盟國以外ノ加入シ得サル條約ノ締結ハ結局折角本事業ニ參加シタル非聯盟國ヲ部外視スルモノニシテ面白カラサルノミナラス聯盟國中此第二ノ條約ヲ重要視スルモノモアルヘシ此點ハ慎重考慮スルヲ要ス何レニスルモ第二ノ部分ハ第一ノ部分ト全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ先ツ米國ノ等シク參加シ得ヘキ第一ノ部分ヲ完成スルニ努メ第二ノ部分ニ移リ聯盟國ト非聯盟國トノ異レル立場ヲ調和スルヲ要アリ若シ委員會カ此動機ニ贊成セラルルニ於テハ良ク問題ノ紛糾ヲ避ケ解決ノ途ヲ啓クコトヲ得ヘク此意味ニテ議事進行ノ方法ニ付提案セントスト述ヘ左ノ提議ヲ爲ス

- (A) 條約適用除外例ニ關スル條項
- (B) 情報ニ關スル條項
- (C) 批准ニ關スル條項

(D) 其他ノ條項及前三項ニテ審議ヲ延期シタル條項尙 (D) ニ關シ採用セラレタル條文ハ第一讀會採擇ノ草案トシテ軍縮會議ノ議題ノ第二部トナルモノトス

右白國代表ノ提議ニ對シテハ英代表直ニ贊成シ波羅兩代表 (D) 項ニ付留保ノ意ヲ表シタルノミニテ敢テ反對セス佛代表亦各條項カ相互相關聯シ例ヘハ條約適用除外例ノ條項ト雖之カ細目ヲ論スルニ當リ結局ハ中央機關設立ノ可否ノ問題ヲ惹起スル事トナルヘシトテ稍受諾ニ難色ヲ示シ白國代表トノ間ニ押問答アリタルモ結局之ヲ承諾スルニ至リ他ニ異議ナク同提

案其ノ儘採用セラル委員會ハ十四日一先ツ休會ス

第二節 細目 審議

第一款 條約適用除外例ニ關スル條項

(分析表第二部ノ九、一〇、一一、一二、一三參照 C.P.D./45(d))

條約適用除外例ニ關シテハ英案ハ戰爭内亂ノ外締結當時豫見セラレザリシ特殊ノ狀態ニ在ル場合ニモ及ホサントシ佛案ハ單ニ侵略ヲ受ケタル場合ニノミ限ラントス白代表ハ英案ヲ以テ廣汎ニ過クルモノトシテ反對シ即戰爭ニハ侵略戰アリ規約カ止ムヲ得ストシ放任スル戰爭アリ純然タル防禦戰アリ條約所定ノ兵力増加ヲ許スハ第三ノ防禦戰ノ場合ニノミ限ラサルヘカラス内亂ノ如キハ各國常ニ之ヲ豫見シ得ル所ニシテ又之ヲ考慮シ條約所定ノ兵數ヲ定ムルヲ以テ敢テ列舉ノ必要ナク反内亂ハ一國內部ノ事項ニシテ一國自由ニ之カ鎮壓ノ措置ヲ講シ得ヘシ又豫見セラレタル特殊ノ狀態トハ右等戰爭内亂ヲ除キ如何ナル場合ナルヤ明ナラス依テ此際ハ條約ノ適用除外例ハ單ニ侵略ヲ受ケタル場合ニノミ限リ尙英國側ヲ満足セシムル爲華府條約第二十一條ノ精神ヲ酌ミ「情勢ノ變化ニ依リ條約所定ノ兵數増加ヲ要スル場合ハ獨米英佛伊日及聯盟理事會ノ同意ヲ受クヘキモノトス」ナル一句ヲ挿入スル事トシタシト提議ス(C.P.D./72)然ルニ英代表ハ佛案ノ所謂侵略戰ナル用語明瞭ナラス且理論上ヨリ云ヘハ侵略國ニ對シ兵力増加ヲ許スヘカラサルコト勿論ナルモ實際ニ於テ一度條約ヲ破棄シ不法ニ戰端ヲ開キタル國ニ對シ兵力ノ増加ヲ禁スルモ何等效果ナカルヘク又内亂ニ付若シ白國代表ノ云フカ如ク之ヲ國內的ノモノトシテ之ヲ豫想シテ兵數ヲ決定シ得ルモノトセハ各國ノ所要兵數徒ニ増加シ軍縮條約ノ結果皆無ニ歸スヘシト反駁シ伊代表之ヲ支持シタルモ佛代表及蘭代表ハ何レモ白國提案ニ贊成シ兩說ノ間ニ長時間ニ互リ論爭ヲ重ネ議纏ラス竟ニ第二讀會迄決定ヲ延期スルコトトシ報告ニハ英佛兩案及白國側修正案ヲ欄ヲ分ツテ記入スルコトトセリ

第二款 軍事情報ニ關スル條項

(分析表二、三、四、五、六、七參照)

- (一) 佛國案第五條即陸軍人員通告ノ方式ニ關シテハ獨逸代表ハ既教育豫後備兵ニ關スル情報ヲ提供スルノ必要ヲ説キ第二讀會ニ於テ再ヒ之ヲ提案スヘキ旨ヲ留保ス又芬蘭代表ハ毎年ノ軍事情報ヲ其年ノ十二月末日迄ニ報告スル事實際不可能ナリト主張シ結局「豫算年度ノ終了後三ヶ月以内」ト改ムル事ニ決ス其他異議ヲ唱フルモノナシ
- (二) 佛國案第九、第十條即空軍機材ノ通告方式ニ關シテハ獨逸代表再ヒ現在支給ノ機材及貯藏機材ノ兩者ニ互リ公表スルノ必要ヲ説キ第二讀會ニ於テ再ヒ之ヲ提議スルノ權利ヲ留保ス次ニ伊代表ハ通告ノ形式ニ付テハ陸軍ニ付テハ佛案第五條ノ如ク數表ニ區分スルコトニ決定シタルヲ記憶スルモ海軍及空軍ニ付テハ何等ノ決定ナク單ニ制限方式トシテ二ノ表ノ採用セラレタルノミナルニ付若シ委員會中ニ之ニ満足セス數表ニ區分センコトヲ希望スル向アラハコハ一ノ新提案ナレハ進ンテ第二案トシテ委員會ニ提出スヘク制限方式ニ關シ採用セラレタル表ヲ恣ニ變更スル事ニハ同意シ難シ強硬ニ主張シタル處佛代表ハ空軍ニ關シニ表ニ分ツノ案ハ制限方式トシテ採用セラレタルモ通報ノ方式ハ何等議論セラレタル事ナク且既ニ佛案第九條及第十條トシテ數表ニ分テ提出シアレハ若シ伊國側カ二表說ヲ主張セラルル意嚮ナレハ其案コソ一ノ新提案ナレハ之ヲ留保トシテ提出スルカ又ハ佛案ト併ヘテ二欄トスル事トスヘク之ヲ一案トシテ採用ヲ強フルモ佛國側ハ絕對ニ贊成セスト反駁シ兩代表ノ間ニ激シキ論爭アリ結局提案ト佛案トヲ二欄トシテ掲クルコトトセリ
- (三) 英案第九條中華府條約第十六條ニ倣ヘル條項ニ關シテハ我佐藤代表ヨリ本件條約ノ如ク多數ノ締約國アル場合一々之ヲ通告スル事煩雜ニシテ實行困難ナル旨ヲ指摘シ修正ヲ求メ何等異議ナク通過ス
- (四) 軍事情報ノ蒐集統一等ニ關スル佛案第二十二條ハ監督ノ問題ト關係アリトノ理由ニ依リ之ト同時ニ審議スルコトニ決定ス

第三款 批准及條約ノ效力發生存續ニ關スル條項

(分析表一八、一九及二〇參照)

- (一) 佛案第二十八條即本條約ハ締約國既存ノ軍備制限條約ノ效力ヲ變更スルコトナシトノ規定ニ付テ獨代表ハ「ヴェルサイ

ユ」平和條約第五編前文ノ規定ニ依リ同條約ノ締約國ハ一般ノ軍備縮少ヲ爲スノ義務ヲ負ヘルヲ指摘シ此ノ如キ一般の軍備縮少ヲ實現スル軍縮條約ニ非サレハ獨逸ハ之ニ參加スルコトヲ得ストシ顧ミテ準備委員會ノ第一讀會ノ經過ヲ見ルニ其ノ成果頗ル不充分ニシテ獨逸ノ希望ヲ満足シ得サルニ依リ獨逸ハ第二讀會ノ結果ヲ見ル迄軍縮條約全般ニ對スル態度ヲ留保スヘシト宣言ス佛代表ハ平和條約第五編ノ趣旨ニ對シテハ佛國代表何等之ヲ否認セントスルモニ非サルモ右條項ハ平和條約ノ前文即聯盟規約ノ規定ト不可分ノ關係アリ殊ニ規約第八條ノ冒頭ニ存スル安全ニ關スル條項ハ軍縮條約締結ニ當リ充分之ヲ考慮セサルヘカラスト斷シ羅波白ノ代表之ニ和シ兩者ノ間ニ論争アリ結局獨逸ノ留保ヲ了承シ本條項ヲ採用スルニ決ス

(二)

英案第十三條即本條約ハ獨米英佛伊ノ批准寄託ヲ俟チ批准寄託國ノ間ニ效力ヲ發生スヘシトスル規定ニ關シテハ佛代表ハ本條項ノ主義ニ於テ何等異存ナキモ既ニ獨代表ガ佛案第二十八條ニ付留保ヲ爲シ軍縮條約カ獨逸ノ満足スル結果ヲ得ラレサル場合ニハ之ニ參加セサルノ言アルヲ仄セル以上本項ヲ其儘放任セハ條約ノ實施ヲ不能ニ陷ラシムルノ虞アルニ付國名ノ列記ハ第二讀會ニ於テ爲スコトシ度シト主張シ他ニ異議ナク國名ノ部分ハ空欄トシ置クコトトセリ

(三)

芬蘭波蘭及羅馬尼ノ三代表ヨリ兵器取引取締條約第二十九條ニ倣ヒ露國接壤國タル右等三國及「エストニア」「レトニア」ニ對スル條約ノ適用ヲ露國ノ條約參加迄猶豫スルコトヲ得ルノ權能ヲ接壤國ニ認ムル旨ノ規定ヲ挿入センコトヲ提議ス(C.P.D./73參照)之ニ對シ亞爾然丁代表ハ主義ニ於テ異存ナキモ或特殊ノ國ニ對シ惠遇ヲ與フルハ不可ニシテ須ク一般ノ規定トスヘシト主張シ白國代表ハ兵器取引條約ハ特種ノ國ニ對シ或限ラレタル規定ニ付之カ實施ヲ猶豫スルノミ然ルニ芬波羅提案ハ條約全部ノ適用ヲ免除セシメントススル規定ハ頗ル不當ナルヲ以テ寧ロ此等關係國ニ於テ條約ノ批准ヲ延期セハ可ナリトテ反對ス我佐藤代表ハ露國ニ近接スル諸國ノ懸念ニ付テハ大體類似ノ地位ニ在ル帝國ハ同情ヲ以テ迎フル所ナルモ斯クノ如ク露國ヲ特定國トシテ取扱ヒ其隣接國ノ批准ヲ算シ特例ヲ設ケ之ヲ條約ニ明記スルハ徒ニ露國ニ不快ノ念ヲ與ヘ惹テ條約參加ヲ困難ナラシムル虞アルニ付本件三國ノ提案ニ對シテ第一讀會ニ於テハ之ニ假決議ヲ

與フルニ止メ第二讀會ニ至リ批准方式討議ノ際三國提案ヲ考量ニ入ルル事トシ例ヘハ白國代表意見ノ如ク各國ハ自國ノ批准ノ效力ヲ其必要トスル接壤國ノ批准終了ニ係ラシムル如キ方式ヲ採ルニ於テハ本件三國提案ノ如ク露國ニ對シテヲ設ケスシテ其懸念ヲ得ヘシト思考スト述ヘ英代表亦我主張ニ贊シ假ニ此種規定ヲ置クトシテモ條約全部ニ互ル特例トセス例ヘハ兵員制限ニ關スル規定ノ實施延期ト云フカ如ク範圍ヲ限局スヘシト提案シ瑞典及智利代表ハ寧ロ本件ノ決定ヲ第二讀會迄延期スヘシト論シタルモ結局芬波羅三國側ニテ日英ノ勸告ヲ容レ提案ヲ改メ條約ノ特定條項ニ付適用ヲ延期スルノ形式トシ且其條項ハ第二讀會ニ於テ之ヲ決定スルコトトスルノ折衷案ヲ提出シ採用セララル

(四) 英案第十一條滿場一致可決セララル

(五)

英案第十四條第一項及佛案第二十九條即條約效力存續期間ニ關スル規定ニ關シテハ佛代表ハ之ヲ本會議ノ決定ニ委スルヲ得策トスルノミナラス佛國ハ條約ノ效力ヲ陸海空ノ三軍ニ共通ニセントスル提議ヲ維持スルヲ以テ英案ニ贊成スルヲ得スト主張シ英代表ハ空軍ニ付テハ技術ノ進歩頗ル迅速ナルヲ以テ之ヲ長期ニ互リ效力ヲ存續セシムルニ適セス之ニ反シ海軍ニ於テハ艦艇建造費高額ナルヲ以テ之ニ關スル條項ハ比較的長期限ヲ附スルヲ利益トス斯クセハ佛國其ノ他ノ主張スル陸海空一體ノ原則ニ反スヘキモ實行ノ見地ヨリシテ此點ニ關スル例外ヲ置クコト蓋シ止ムヲ得ストシ唯此點ニ關スル決定ヲ第二讀會迄延期スル事ニハ贊成スト述フ其他委員會一般ハ延期說ニ傾キ其ノ通り決定ス尙英案第十四條二項以下ニ付テハ佛國側ハ前記(二)ニ對スルと同様ノ留保ヲ爲シ他ニ異存ナク可決ス但白耳義代表ハ聯盟規約ハ其第八條ニ於テ軍縮條約ノ效力存續期間ヲ十ヶ年トシ其後理事會之ヲ再審査ニ附シ必要アレハ之ヲ修正スルノ仕組ヲトリ常ニ一ノ軍縮條約ノ存在ヲ前程トスル處英案ハ或場合軍縮條約ノ全然消滅スル場合アルヲ豫想ス此解釋ハ規約ト抵觸スルコトナキヤ將又英案ノ趣旨ハ聯盟加入國ノ間ニハ規約ノ規定優先ノニ適用スヘキモノトスルヤト質問ス之ニ對シ英代表ハ第八條ハ理事會ノ定ムル軍縮條約ハ各國ニ承認セラレテ始メテ效力ヲ發ストアリ依テ各國ノ承認ニ附セラルヘキ條約ノ期間ニ一定ノ年限ヲ定ムルモ別ニ規約ニ抵觸スルモノトハ解セス且第八條ハ聯盟カ世界的ノ機關タルヘキモノタル事ヲ前

程トス規約ノ運用カ各方面ニ於テ其ノ作製當時ト異ナルニ至レルハコレカ爲ナリト答ヘタリ

第四款 軍事常設機關ニ關スル條項

(分析表一、參照)

(一) 議長ヨリ本問題ハ既ニ一般討論ニ於テ詳細議論シ盡サレタル所ニシテ更ニ之ヲ繰返スノ要ナク事口此際之ヲ避ケ各國政府ニ之カ再考ノ時間ヲ與フル事トシテハ如何ト提議シタル處白。國代表ハ委員會一般ニ右提議ニ同意ナラハ敢テ不同意ヲ唱ヘサルモ此際尙本件ニ付一應ノ討論ヲ行フコト無益ニアラス假リニ意見ノ一致ヲ得ルノ見込ナシトスルモ少クトモ問題ノ内容ヲ明ニシ得ヘク相互ニ胸襟ヲ開キ研究ヲ重スルニ於テハ意外ノ收穫ヲ得ヘシト述ヘタルモ委員會ノ大勢ハ議員ノ提議ニ左擔シ結局其ノ通り決定ス尙獨代表ハ本件ニ關シテハ委員會ニ於テ討論ヲ行ハサリシ旨ヲ「プロトコール」ニ記入セント提議シタルモ米代表其他ハ既ニ委員會ニ於テ一般の審議ヲ行ヒタル以上寧ロ此事實ヲ明ニシ唯委員會力決定ヲ第二議會ニ延期シタル旨記述シタシト主張シ伊佛等モ之ニ賛成シ委員會ハ其ノ趣旨ニテ英佛案ヲ其儘ニ欄トシテ存置スル事ニ決ス

(二) 尙右決定ノ結果他ノ關係條項即佛案第二十二條第二項乃至第四項ハ全部其儘第二議會ニ延期セラル

(三) 因ニ條約實施ニ關スル告訴條約ノ修正ニ關スル條項(分析表一六乃至一七參照)即英案第十二條佛案第二十五條及第二十六條モ亦(一)ト同一ノ理由ニ依リ細目ノ審議ヲ行ハス一括第二議會ニ延期セラル

〈參考〉

4 軍備縮少會議準備委員會

第四回會議報告書